

重播磨の話題満載

加古川がもっと楽しくなる
コミュニティマガジン

hot!

ほんとにかこがわ



特集

メディアを創ろう!

最終号

No. 32



あなたとわたしが同じ考えなら
あなたとわたしである必要なんかないんじゃない？
コミュニティはジグソーパズル
凸と凹が補いあうからこそ
強固な社会が形成されるです。

人が好き、町が好き、広がる愛と明日の夢



財団法人

加古川市コミュニティ協会

〒675-0017 兵庫県加古川市野口町良野398-1 TEL0794-24-9395 FAX0794-24-9315

巨大 招き猫

加古川
ウォッチング

にゃー
にゃー
にゃー
にゃー
にゃー

私は石の猫です。名前はまだありません。高砂で生まれました。石材店の前で道行く人に笑顔を振りまいている私を、一目で気に入った主人が加古川へ連れてきてくれました。

私達は、左手をあげて客を招き、右手をあげてお金を招くとかいわれています。両手をあげている私は、人もお金も入ってくるとか、万才をしているんだとか、いろいろいわれます。でも私の主人はそんなことには無頓着で、ただただ私の可愛らしさに惹かれたようです。

今、私は、マンションの敷地の一角にいます。目の前には
空き地が広がり、道の向うには神社が見えます。何故か私は、
神社の真正面に立っていて、毎朝一番にお日様に“おはよ
う”といえる場所にいます。

この間、可愛い女の子が、おかあさんに手を引かれてやってきて、私と一緒に記念写真を撮りました。この付近では私はちょっとした人気者です。

もうすぐ私の前に信号のある広い道ができます。そうなれば、皆からここは、“猫の交差点”なんて呼ばれて、古古川一の有名猫になりそうな予感がしている今日この頃です。

発行日 2003年3月
制作 ほっとかこがわ編集部
発行 財団法人加古川市コミュニティ協会
〒675-0017

配布先

加古川市役所
各市民センター
各公民館
総合文化センター
図書館
青少年女性センター
勤労会館
総合福祉会館
スポーツセンター
ウェルネスパーク
海洋文化センター
他

データ制作デザイン 鶴屋パブリックリレーションズ
表紙イラスト 片田陽子
使用ソフト CorelDRAW9J・UrbanPress3.0

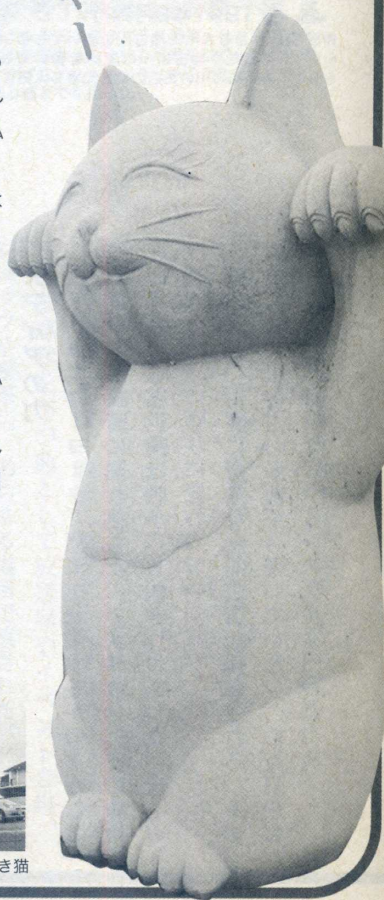
Windows DTP この冊子は全頁Windows2000環境にて制作しております。

本誌に掲載されている記事などの著作権は、ほっとかこがわ編集部にあります。無断での転載引用はお断りいたします。

本冊子は、財団法人加古川市コミュニティ協会の「コミュニティの情報提供事業」の一環として発行するものであります。したがって、お店の広告掲載などは基本的に考えておりませんのでご了承ください。また、本文におきまして掲載されているお店の記事などににつきましては、「地元商店情報を掲載することにより、少しでもまちに活力があふれれば」という考えで構成しております。情報をお受けすることはできますが、広告としての掲載は致しかねますのでお知らせしておきます。



加古川町で両手をあげる高さ約2mの招き猫



平成3年4月、名前のない12ページの冊子が加古川市内の公共施設に配布された。表紙には大きく、ゼロという数字が書かれていた。これが「ほっとかこがわ」の創刊準備号。本の名前は、その創刊準備号で公募され、次号より「ほっとかこがわ」という名前に決定する。

発行元は、現在と同じく「財団法人加古川市コミュニティ協会」(平成4年4月に財団法人化)だが、コミュニティ協会は制作に直接タッチするわけではなく、あくまで市民有志によって組織される編集部によって加古川のタウン誌をつくっていくという趣旨のもと立ち上げられた。全国的には商業ベースを含めて数多くのタウン誌があるが、このシステムはユニークなものだった。

創刊当時は、雑誌をはじめ媒体をつくるには多くの時間とお金が必要だった。今とちがいが当時は一部のコンビニや文具店しかコピーサービスは行なっていなかったし、値段もたしか1枚50円ほどしただけではない

かと記憶している。もちろんインターネットは、まだパソコン通信の時代であつたし、ホームページという言葉もなかった。地元の情報を伝えるケーブルテレビもなかったし、商業ベースの新聞もまだまだ少なかった。

あれからちょうど今年の4月で13年になる。そしてこの号で実は紙媒体としての「ほっとかこがわ」はいったん幕を下ろすことになった。その理由としては費用対効果の見直しということになる。10年前と違い、インターネットをはじめ、今はあらゆる情報の経路がある。その中で紙媒体ではどうしても情報がいきわたる人数に限りがある。ましてや経費の見直しはあらゆる企業や行政のテーマである昨今、これは時代の流れだ。

今回、雑誌として最後の「ほっとかこがわ」では、媒体のつくりかたをテーマに特集してみた。先にも書いたように今の時代は個人でも比較的簡単に費用もなるべくかけずに情報を発信できる。ぜひ、自分達のサークルや仲間、また個人で、情報を発信してみようという提案を最後の特集にしたい。



0号 創刊準備号 1991年4月発行

加古川在住の小説家である玉岡かおるさんへのインタビュー記事をのそいてはスタッフ募集やネーミング募集などの告知記事がほとんど。付録に版画家岩田健三郎さんによるの加古川のイラストマップ(A3版)がついた。



1号 創刊号 1991年8月発行

作家 玉岡かおるさんに加古川を歩いてもらい6ページにわたり加古川への思いを書いてもらっている。加古川のお店の紹介記事も人気に。

メディアの力

アメリカニューヨーク、経済を象徴するかのような2つのタワーが瞬時に崩れ落ちた。アメリカは、その報復という名のもと世論は戦争へと傾きつつあった。悲しみや恐怖は徐々に怒りに変わっていった。

そのとき、新聞に奇妙な全面広告が掲載される。その広告には、広告主の名前すら書いていない、ただ真中に一行の文字が書かれているシンプルな内容だった。

メディアを創ろう!

特集

メディアを創ろう!



4号 1992年12月発行

加古川むかし物語と題して、加古川に伝わる埋蔵金伝説や加古川に都を移す遷都論などを紹介。



3号 1992年6月発行

川を特集。上流から下流までを順に紹介。内容は環境問題から川を利用した暮らしや遊びに至るまで幅広いもの。



2号 1992年2月発行

加古川に住むということをテーマに特集を組んだ。



7号 1993年12月発行

そもそも文化って何だろう? そんな疑問から組まれた特集。加古川独自ともいえる文化を面白おかしく考察している。



6号 1993年8月発行

加古川の夏という特集を組む予定だったがあまりにも漠然としたテーマに編集部がギブアップ。当時の編集長大槻氏により急速加古川初の名誉市民である三宅周太郎の特集に差し替えた。



5号 1993年4月発行

ゴミやあき伍のボイステを特集。いままでの文化的な特集から社会的な問題を取り上げる特集に。ボイステをやめようという普及だけでなく、その心理までを探った。

そこにはこんな一文が書かれていた。

Imagine all the people living for today...

想像してごらん...みんなが今日のために生きています。

これはジョン・レノンの曲「イマジン」の一節である。

この全面広告は、戦争に反対する人々の間で、シンボリックな意味を持つ曲として放送局やイベント会場、ショップや喫茶店、あらゆる場所で流された。いくつかのラジオ局はこの曲を「今の時期にはふさわしくない」という理由で自粛したが、むしろ、今の時期だからこそこの曲は必要だと流しつづけた局もあったという。

後に判明したこの全面広告のスポンサーは、亡きジョン・レノンの妻であり、伴侶でもあった前衛アーティストのオノ・ヨーコだった。

この事象で興味深いことは、全面広告の内容だ。たとえば戦争反対を訴えるなら、もっと文章を書くこともできたはずだ。新聞の全面のスペースには実に多くの文字がはいっている。説得力や大衆を扇動したりすることも可能な十分なスペースなのだ。ところがそのスペースのほとんどは、何も印刷されていない空白だった。ただ、その空白の中に一行の文字しか入っていないかった。

想像してごらん...

みんなが今日のために生きています...

しかし、この一行は、おそらくは一面を埋め尽くす文字の塊よりも効果的であったのではないかと思う。それは、新聞というメディアの力ではなく、「イマジン」という曲の力を体現しているのではないだろうか?

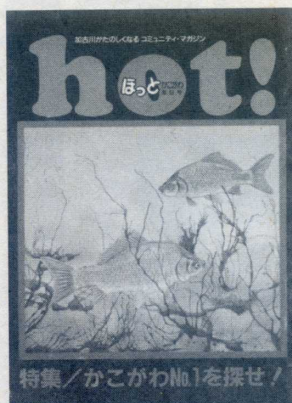
このことをオノ・ヨーコは後にテレビのインタビューでこう語っている。

「イマジン...想像してごらん、言葉の意味どおり、多くの人に想像してほしかったのです。想像することができれば、今私達は何をするべきか答えは見えてくると



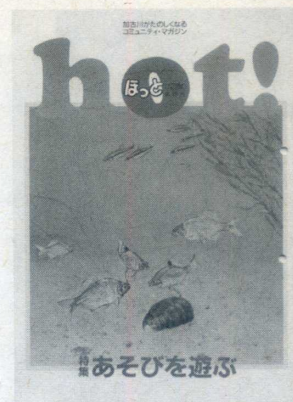
10号 1994年12月発行

創刊10号目ということで、10年後の加古川の未来を予想した「10年後の未来」が特集。多くの人に「こんな10年後がいいな」と語ってもらった。今では実現したものも多い。



9号 1994年8月発行

「加古川って何もないとこやなー」。そんな声に反論。加古川のNO1を探そうと編集部は東奔西走。いろんなNO1を探してきた。



8号 1994年5月発行

「あそびを遊ぶ」と題して特集。昔ながらの遊びからテレビゲームまで、あそびを紹介するとともに、その中にある社会学習の本能にまで考察は及ぶ。ほんと流教育論でもある。



13号 1996年3月発行

加古川線の特集。ゴトンゴトンとローカル線に揺られての取材。表紙のイラストも雰囲気を出してる。



12号 1995年10月発行

かこがわの木を特集。いろんな木を取材。木と生活のあり方を考えた。



11号 1995年5月発行

前号では「未来」を取り上げた。この号では「加古川戦後50年の記録」と題し、過去を取り上げた特集を組んだ。貴重な古い写真も数多く掲載。資料探しに明けくれば制作。

おもうのです」

たった一行の言葉が多くの人の意識を収束させた。この事象を考えると、頭の中で日本の戦後のある一時期を想起せずにはいられない。

戦後、誰もが餓え、誰もが平等に不幸を抱えていた。

そんな焼け野原の中、生きる勇気を与えたのはGHQが全国の公民館や学校を拠点に上映したアメリカ映画である。背丈よりも大きい冷蔵庫にはたつぷりの牛乳やバターが詰まっており、トースターが焼きたてのパンをはじき出す。お父さんは書齋を持ち、子供たちが勉強部屋を持つ、庭には青々とした芝生と寝るべき犬。そんな夢のような裕福な世界。これはアメリカの文化を植え付ける政策だったともいわれているが、それでもこの映像が戦後の日本に夢と希望を与えたことは事実であろう。

また、焼け野原にどこからともなく聞こえる歌謡曲もあった。皆、そんな歌謡曲を口づさみながら、皆が抱える共通の不幸を跳ね除けようとガムシャラでいられたのだ。

これがメディアの力だ。人に夢や希望や生きる活力を与える。明日は必ずそこに存在しているのだと気づかせる。人は一人ではないんだと理解させる。これはメディアの力なのだ。

失速するメディア

1980年頃から、テレビの広告の世界に異変が起きてきた。人気のある広告の商品が売れないのだ。それまでは人気のある広告の商品は広告の人気度に比例して売れていた。ところがその人気度と商品の売れ行きの曲線が比例しない。その現象は今だに続いている。おもしろいコマーシャルの内容は覚えていて、そのコマーシャルが何の広告だったかはさっぱり思いだせない。広告の製作側は、古典的な商品名を連呼する音楽をコマーシャルに挿入したりするが、それでも音楽は皆口ずさむが商品の購買意欲にまでは繋がらない。

これはどうしたことだろう？

「メディアの力がなくなってきた」

「マスの時代は終わった」

メディアを創ろう!

特集



16号1997年3月発行

加古川の公共施設をとことん利用つくそう!と「公共施設120%活用法」を特集。まちのハード面の見直しと、積極的にパブリックと付き合おうという2つの面からアプローチした。



15号1996年11月発行

「冬はやっぱりお風呂やで」と、加古川のお風呂を特集。昔ながらの銭湯にまさに「はだかのおつきあい」を見た編集部であった。



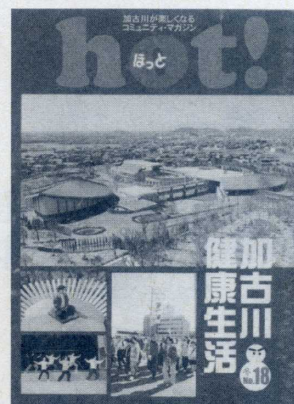
14号1996年7月発行

制作途中で大槻編集長が他界。この号に記された編集後記が最後の文となる。「言葉はこわいものです。といって発言したり、書いたりしないわけにはいきません……」。この言葉の重みをかみしめたい。



19号1998年3月発行

山陽道をつくって歩いて取材。車のような点の移動ではなかなか目につかない実に細かなまちの様子を掲載した。



18号1997年11月発行

加古川のスポーツ施設やサークルを取材。「加古川健康生活」という特集としてまとめた。



17号1997年8月発行

加古川近郊の高等学校を取材。中からでしかわからない学校や生徒の姿を伝えた。「着せ替え人形制服図鑑」は賛否両論を巻き起こした。

これが業界筋で定説として語られるその原因だ。今や、マスメディア、それも広告に書かれていることをそのまま鵜呑みにする人はいないのだ。誰もが意味冷めた目で広告をみている。つまり全面的に信用してはいないのだ。

そしてそれは、広告のみならず、テレビや新聞や雑誌の記事にも言えることだ。

メディアの信用度が落ちたのはマスメディアが資本主義をベースに成りたつ以上、それは来るべくして来る破綻だとも言える。情報はその性質上、誰かの編集を経て世の中になる。

これは情報のもつ宿命だ。編集作業は、その発信者の意図がおのずと反映される。情報はそれがどのような種類のものであれ、必ず編集されているのだ。あえて、もつと悪い言葉でいうなら、あらゆる情報には嘘が内包されているのである。そして情報が身近になるとその嘘に人々は気がつきはじめた。信用が落ちたとはそういうことだ。

また、昔と違いメディアの種類の多さも、メディアの力がなくなった原因とも言える。インターネットは、多くの人の目に触れる可能性があるという意味で、マスメディアだと言える。その普及は人々からテレビを奪いつつある。都会の若者はワンルームにテレビを置かずパソコンだけを置くというシンプルなライフスタイルを好むという統計結果もある。

テレビにしても、従来の地上波のほかにCS放送やBS放送、またインターネットによるブロードバンド放送など実に多くのチャンネルが存在する。昔は、テレビは全国共通の話題を提供したものだ。街頭テレビの前は力道山の空手チョップに白熱する群集がさながら祭りのように沸いていたし、学校や職場や町内の井戸端会議では連続ドラマの行く末が常に話題になっていた。

人をまとめる共通の文化

国家とか民族という括りは、国境や政治が作り出すものではなく、共通の文化によって自然に産み出される



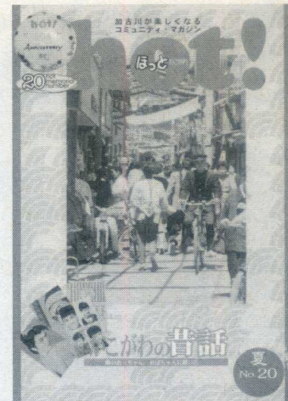
22号 1999年3月発行

加古川近郊の公園を紹介するとともに、公園にまつわる問題点なども取材。公共の場とは何かという考察をした。表紙裏には、今回の取材を通して得た意見をもとに「夢の公園ほっとばーく」のラフスケッチも掲載。



21号 1998年12月発行

世の中の腹がたつことを、堪忍袋の緒が切れたようにぶちまけてしまえ！という「加古川立腹伝」が特集。社会に対して主体がなくなりつつある今、この怒るという行為は実は重要だったりする。しかし、多くの怒りは客体としての怒りだった。



20号 1998年7月発行

「かこがわの昔話」と題し、隣のおっちゃんやおばやんに昔話を語ってもらった。貴重な当時の写真も掲載し等身大のかこがわの歴史が浮かびあがる。



25号 2000年3月発行

2000年を迎え、「21世紀に残したいもの」を特集。ノスタルジーな感傷に浸るのではなく、残したい意味を検証、懐古に走ることなく、あくまで「未来」を見据えた。



24号 1999年11月発行

「車がないと生活できない」とまで言われる加古川であって「自転車でいこう」と特集。放置自転車の問題から、サイクリングコース紹介、さらには自転車で社会が変わるという提案までしている。



23号 1999年7月発行

世の中は不景気に突入。が、それさえも楽しんでしまおうと「チープシックな生活」を特集。お金を使わず生活する様々な極意を紹介しているが、それはスローライフへの提案でもあった。

「群れ」の意識だと思うが、テレビはこの群れの意識を形成するのに役だったのではないかと思う。

最近では「ワールドカップ」。多くの人があの祭り、「自分が日本人であることを認識した」と言っている。

しかし、ワールドカップは例外中の例外であろう。今、ワールドカップ並に多くの人を白熱させるイベントは皆無だといっても言い過ぎではない。多くの人々の関心ごととは、さまざまなベクトルを示す。多様性の時代なのだ。選択肢は山ほどある。

マスメディアは、人々を収束させる力を失いつつある。人々には共通の不幸もないし、共通の話題もなくなりつつある。ましてや情報は氾濫している。誰もが同じ方向を向いてはいない。それはある面、「自分に関係のない事以外には無関心だ」という風潮をつくり出し、また別の面では「多様な文化を生み出す可能性」にもなっている。

マスメディアは力強い、情報は多種多様なベクトルを指ししめす。選択肢は数多く存在し、自分の気に入らないものはスイッチを切り、目と耳をふさげばよい。自分にとって意味のあることを追求め、快楽を突き進めばよい。

こう書くと、実に混沌とした情報の海で、私達は快楽のみを追求め世界は荒廃しつつあるように思えてくるかもしれない。しかし、すべての社会システムが混沌を母体として産まれてきたように、この混沌とした状態は、きたるべき新しいメディアや新しいコミュニティの在りかたへの転換期なのではないかと思う。

メディアの力は人に何をもちたらか

今までのメディアは、あくまで一方からの情報でしかなかった。その情報の重要性や信頼性がいかなうもので在ろうと、情報の受け手はただ情報を受信するしかなかったのだ。

たとえば、それは見知らぬ喫茶店でコーヒーを飲むのに似ている。そのコーヒーに毒が入っていないとは限らない。が、信用しなければコーヒーは飲めないのだ。社

メディアを創ろう!

特集



28号2001年8月発行

「加古川口伝、昔むかし物語」と題し、加古川に伝わる民話と伝承を掲載。実際にその現地で近所の人達に聞き込み取材した。ちょっと怖かった取材もあった。



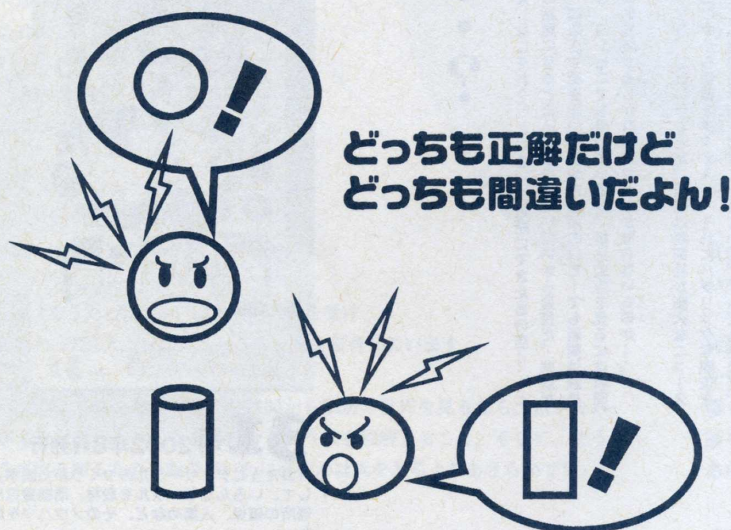
27号2001年3月発行

「加古川勉学のススメ」として、いろんなサークルや教室を取材。生涯学習特集ともいえる内容。学ぶことが生活に何をもたらすかという考察も面白い。



26号2000年10月発行

加古川駅周辺をぶらぶらと歩いてみた。また寺家町商店街や本町商店街の店主の皆さんをお招きしての座談会も開催した。



29号2001年11月発行

昔むかし物語の後編。この号では、むかし話の紹介とともに、むかし話を現代に伝えていこうとする人々も紹介している。

会とはそういうものだった。そこには社会の一員として意見したり、何かを変えていこうとする意思は入り込む余地はない。

が、情報が双方向であったなら、そこに参加することができる。

おもしろい話と話しがある。

Aさんが、「これは丸い」という。またBさんは「いや、それは長方形だ」という。その実態は円筒形。Aさんは円筒形を真上から見て丸いと思い、Bさんは真横から見て、長方形だといっている。

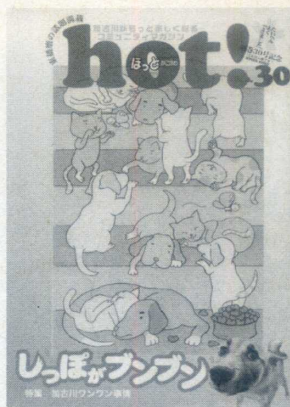
この2人が、議論しなければ実体である円筒形は見えてこない。「なぜあの人は違うことを言うのだろう」「もしかしたら私が間違っているのだろうか」と互いの意見に耳を傾け、自分を疑い、情報を双方向に交換することで実態は姿を表す。情報が一方方向にしか流れないなら、そこには議論も産まれることはなく、丸か長方形かいずれかの形であると信用するしかない。それは仮想の信用であり、信用しているふりをしているのであり、また相手をいないかのように扱っているだけであるとも言える。

情報が一方方向にしか流れないことにより、あるときは人々に希望を湧き起こしたが、またあるときは悲劇を招く。これはどちらもメディアの力。力とは、使いようによって人を幸福へも不幸へも導くものだ。

昔は一人の個人が不特定多数の人に情報を提供するには多くの金と労力を必要とした。

それがテクノロジーの発達によって誰でも比較的簡単にマスに向けて情報を発信することが可能になった。

コンビニにはコピーが常設されている。しかも、カラーコピーが1枚たったの何十円で可能である。また、コンピューターからプリントアウトすることもできる。誰もが発行部数の差はあれ新聞をつくることは可能だ。ホームページは、そのアドレスさえ告知できれば世界中からアクセスが可能である。個人がマスメディア並の情報発信をすることも可能だといっても、言い過ぎでは



30号2002年3月発行

ペットブームの中、加古川の犬事情を取材。また特集連動企画として、保健所で殺処分される犬の最後の表情をとらえた写真の展示会も開催した。



31号2002年8月発行

「コミュニティサークルのつくりかた読本」として、いろんなサークルを取材、活動費捻出や場所の確保、人集めなど、そのノウハウを聞いた。

情報の海で

溺れないためには……?

旅行先の河川敷で迷い犬を見かけた。赤いリードを引きずりながら河川敷の駐車場でウロウロしていた。「まあ、近所の犬だろうから、すぐに飼主さんが探しくるだろう」と思っただけで放っておいた。次の日、同じ場所に行くときまた、赤いリードは外れていたが、間違いない昨日の犬だ。どうも駐車場から動く気はなさそうなので飼主を待っているのだろう。しかし、こちらは旅行者の身。どうすることもできない。警察に連絡してみたが、迷子犬を探しているらしい飼主の情報は届いてはいなかった。で、インターネットで近所の保護活動をしている民間の団体を検索し、連絡したのだがこの時思ったのは実に多くの迷い犬情報や捨て犬情報や里親募集情報がネットにはあふれている。それが一箇所にあろうとはなくいたるところに散在している。それぞれの団体が、あるいはそれぞれの個人が情報を発信しているが、その横のネットワークには構築されていない。結局、連絡をとった保護団体に行きつくまでに半日を費やすことになった。

情報の総量としては膨大だが、膨大すぎる情報から必要な情報をチョイスするのはあくまで「私自身」の作業なのだ。

実は、僕は新聞を取っていない。古新聞が山になるのが煩わしいと、テレビやラジオ、そしてプロードバンドでインターネットに接続するのに料金を気にする必要がなくなったので思い切って新聞を取るのをやめた。朝起きると、パソコンをたちあげ、コーヒーを啜りながらのニュースサイトのヘッドラインを読む。ところがニュースサイトのヘッドラインは新聞のような大きな見出しがついていないわけではない。新聞で一面トップの記事も三面記事も同じ大きさだ。だから、自分の頭の中では芸能ニュースが一面トップを飾ることもある。出先で今日のニュースが話題になったときに少々ズレる場合もでてくる。「たいへんなことだな、北海道の事故」

「え、なにそれ?」となる。「近所にできたあの店……」とかの話題になると折込広告を見えないから皆目だ。余談だが、喫茶店や図書館や病院や市役所のロビーでも新聞は読めるし、コンビニでも売っているが、折込広告を見るには新聞を契約購読するしかない。なんとかならないものか……。

つまり、こういうことだ。新聞は新聞社が膨大なニュースの海の中から情報をチョイスし、それにパブリックな順位をつけて私達の目の前に届けてくれている。テレビもそうだ。ところが、自分で情報を得ようとする膨大な情報の海の中を泳ぎつづけることになる。時には、マスメディアが世論を誘導しているかのような批判が沸き上がることもある。たしかにワイドショーの過熱報道を皆、眉をしかめながらも見ている姿はおかしなものだし、テレビが報じていることに異を覚えることも多い。「それは、世間様の意見じゃなくて、あなたの意見でしょ」と突っ込んでみたくなる。が、それは情報を束ねるということの宿命ではないかと思える。

アメリカは、おそらく世界でもっとも多種多様なメディアが存在する国だ。テレビも数多くのチャンネルが存在するがそのどれもが良ように表現すれば個性的、悪いように表現すれば偏っている。そんな情報の乱気流の中、振り回されないようにメディアリテラシーの授業が学校では行われているのもうなずける。

では日本はどうか?どのメディアも多少の差はあるが、大きな差はない。これはメディアがスポンサーというしくみで成り立つから起こる現象なので、いちがいに良いとか悪いとか言えない複雑さがあるわけだが、選択するメディアが多ければ、束ねる宿命の中にも世論は形成されるのだと思えるのだ。

ない。

メールを通じて世界にひろまった「1000人の村」という寓話もある。これは環境破壊や戦争などについて深く考えさせられる短い詩なのだが、誰が書いたのか作者は不明だ。メールによって人から人へと伝聞していく世界にひろまった個人発のメッセージである。

誰もが情報を受けるだけではなく、自らも発信することができるようになりつつある今、メディアの力、実はそれはなくなつたのではなく、もしかしたら個人に委ねられようとしているのではないだろうか?

誰かが歌う歌謡曲が明日に希望を与えてくれた時代は終わりを告げ、あなたが歌う歌謡曲が明日に希望を与える時代がきたのではないだろうか。

そう、ジョン・レノンのイマジンの一節のたつた一行は、新聞という力だけのものではなく、あくまでジョン・レノンのイマジンの力との相互作用であつたように、個人の考えや思想が、メディアの力と合致するとき、混沌とした情報の海に、明日を指し示す太陽が昇ってくるに違いない。それが、これからの社会の苗床であると信じてたい。



メディアを創ろう!

もし、現在の人類統計比率をきちんと盛り込んで、
全世界を100人の村に縮小するとどうなるでしょう。
その村には・・・

57人のアジア人
21人のヨーロッパ人
14人の南北アメリカ人
8人のアフリカ人がいます

52人が女性です
48人が男性です

70人が有色人種で
30人が白人

70人がキリスト教以外の人で
30人がキリスト教

89人が異性愛者で
11人が同性愛者

6人が全世界の富の59%を所有し、
その6人ともがアメリカ国籍

80人は標準以下の居住環境に住み
70人は文字が読めません

50人は栄養失調に苦しみ
1人が瀕死の状態にあり
1人はいま、生まれようとしています

1人は（そうだった1人）は大学の教育を受け
そしてたった1人だけがコンピューターを所有しています

もしこのように、縮小された全体図から私達の世界を見るなら、相手があるがままに受け入れること、自分と違う人を理解すること、そして、そういう事実を知るための教育がいかに必要かは火をみるよりあきらかです。

「100人の村」。この作者不明の詩はインターネット時代の噂話とも言える。誰かが意図的にせよ、著作権を放棄したものがメールで、あるいは掲示板で、またメーリングリストなどを媒体に人から人へと伝わっていき、いまでは本として出版されていたりもするのだ。

この事象について調べているサイトでは、興味深い仮説がたてられている。この文章は大きく3つのパートから成り立ち、それぞれのパートは別の作者によって書き加えられたというのだ。たしかにそう言われてみれば、詩全体に流れる考えには微妙なゆらぎを感じるような気もする。いずれにせよ、名もない作者のつくった詩が世界規模で広がり、そして議論を呼んでいる。これはインターネットというメディアで個人が世界に与える影響の光と影を表している。個人発のメッセージが世界に広がるという光の部分、平和を訴えるこの詩は、もしかしたらいつでも「畏」にもなりえるという影の部分。だが、特筆すべきは、この詩が世界で議論を巻き起こす火種で

また、次のような視点からもじっくり考えてみましょう。

もし、あなたが今朝、目が覚めた時、病気でなく健康だなど感じる事ができたなら・・・あなたは今いきのこることのできないであろう100万人の人たちより恵まれています。

もしあなたが戦いの危険や、投獄される孤独や苦悩、あるいは飢えの悲痛を一度も体験したことがないのなら・・・あなたは世界の5億人の人たちより恵まれています。

もしあなたがしつこく苦しめられることや、逮捕、拷問または死の恐怖を感じる事なしに教会のミサに行くことができるなら・・・あなたは世界の30億人のひとたちより恵まれています。

もし冷蔵庫に食料があり、着る服があり、頭の上に屋根があり、寝る場所があるのなら・・・あなたは世界の75%の人たちより裕福で恵まれています。

もし銀行に預金があり、お財布にお金があり、家のどこかに小銭が入った入れ物があるなら・・・あなたはこの世界の中でもっとも裕福な上位8%のうちのひとりです。

もしあなたの両親がともに健在で、そして二人がまだ一緒なら・・・それはとても稀なことです。

もしこのメッセージを読むことができるなら、あなたはこの瞬間二倍の祝福を受けるでしょう。なぜならあなたの事を思っこれを伝えている誰かがいて、その上あなたはまったく文字の読めない世界中の20億の人々よりずっと恵まれているからです。

昔の人がこう言いました。

わが身から出るものはいずれ我が身に降り来る、と。

お金に執着することなく、喜んで働きましょう。

かつて一度も傷ついたことがないかのごとく、人を愛しましょう。

誰もみていないかのごとく自由に踊りましょう。

誰も聞いていないかのごとくのびやかに歌いましょう。

あたかもここが地上の天国であるかのように生きていきましょう。

100人の村

個人発のメッセージが

世界を巡る

新しい技術はいつも諸刃の剣

あったことではないかと思う。この詩を読んで感動するもの、自分が恵まれていると安心するもの、「かわいそうな人」に恵んであげようと思うもの、詩の内容やそれらの感想に若干の嫌悪感をいだくもの、そんな多くの人がこの1辺の詩から議論を戦わせている。それこそが重要なのではないかと思える。

コミュニケーションプレスホットライン

創刊号 1985年夏発行 B5版28P

創刊号は定価200円で協力店などで販売。第2号は版形を新聞サイズにして同じ年の12月に発行した。加古川周辺のお店が数多く広告を掲載していて、お店ガイドのような役割で人気になった。志方町の有志による編集部によって制作されていた。いわゆる会社が発行する「商業雑誌」ではないが、積極的に広告収入により制作費を捻出しようとしたミニコミとしては加古川初ではないかと思える。



1985年

加古川のミニコミ

何故か、加古川にはタウン誌やミニコミ誌というものが無いと思ってる人が意外に多い。たしかに何十年と続くいわゆる老舗タウン誌はないが、いままで実に様々なタウン誌やミニコミが存在していたのだ。そこにはあきらかに、情報をあらゆる方法で発信し、そこに人と人、人とまちを結ぶ媒体を構築しようとする試行錯誤が見えてくる。

地域コミュニティジャーナル

TAKASAGO KAWARABAN

1986年9月号 A4版 4P

高砂の印刷会社であるハリマコピー工業株式会社が発行していた。高砂近辺のお店などで無料配布。お店の紹介や最近の流行などを楽しく紹介している。どちらかというと、個人と個人をつなぐ伝言板のようなものを目指していたと思われる編集内容。喫茶店などに好きなことを書いてもらうノートを配布。そこで集められた情報を掲載しているコーナーなどがあった。1986年8月号では高砂のミステリーゾーンを特集。幽霊がでると噂される場所を掲載し人気になった。

TheRhythm(NO1)

1985年6月発行 B5サイズ25P

個人が発行する音楽情報誌。手書き文字をコピーして綴じたハンドメイドなもの。この頃からコピー機などのOA機器を利用した個人情報誌が登場しはじめた。



メディアを創ろう!

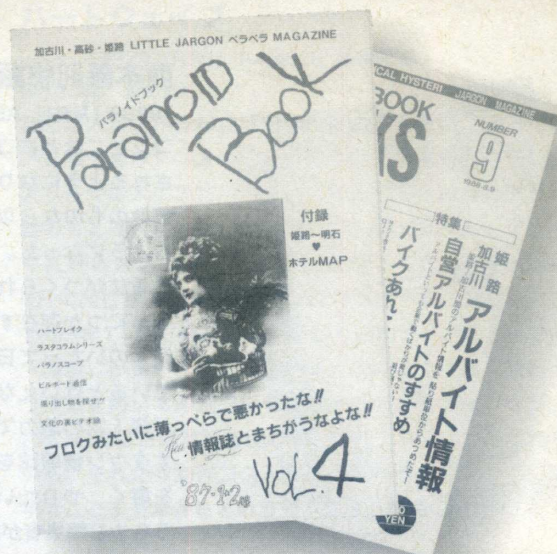
パラノイドブック (vol.4)

1986年12月発行 B5サイズ36P 100円

1986年4月に創刊。創刊当時は、「読むだけじゃつまらない、参加してこそオモシロイ」のキャッチコピーで、読者の投稿や企画をメインとする内容だったが、この頃から町の情報の掲載も始まっている。

vol.4では表紙に「付録みたいで悪かったな」と書いているが後に100Pを越す内容になった。

サブカルチャー系でありながらも、積極的な広告営業と書店や協力店での販売に力をいれていた加古川ではきわめて異質な存在。「アルバイト特集」の号では、アルバイト情報を掲載するのではなく、組織に属さずに金もうけをしようという提案とノウハウなどを提供。



1986年

「びあ」は今ではこの手の情報誌の代名詞となり、「ぶがじゃ」、「シテイロード」は伝説となったが、どの情報誌も最初は紀伊国屋などの大

創刊された。

大阪では1971年に「プレイガイドジャーナル」通称「ぶがじゃ」が、東京では1971年に「シテイロード」が、1972年に「びあ」が

が必然的に産まれた。

1960年代は、どこの映画館でなにを上映しているかという情報は主に新聞で得ていた。しかし、単館上映の映画や自主上映などの情報はなかなか新聞の情報だけでは入手するのは難しく、ましてや小さな小屋で行なわれるライブや芝居などは、その小屋に足を運んで情報を得るしかなかった。そこで、それら情報のガイド役となる情報誌が必然的に産まれた。

型書店か、それら若者文化の理解のある協力店にしかないミニコミだった。これらの情報誌をメジャーに押し上げたのは広告スポンサーの力でも編集部だけの力でもなく、読者とともに創り上げた実に草の根的なものであったと思う。

ミニコミの定義は実際むづかしいが、今現在のメディアで扱っていない情報を自分達で集めて発信してしまおうという草の根的な取り組みが、その定義だといえるかもしれない。

草の根的情報発信

ミニコミって何?

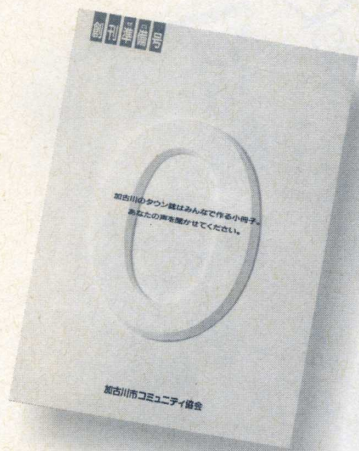
東はりまを結ぶ情報誌 カコガワマガジン

春の号(第7号) 1986年3月発行A4変形サイズ76P 定価300円

夏の号(第8号) 1986年6月発行A4変形サイズ76P 定価300円

「なんで加古川にタウン誌がないねん」と有志によって発行された。おそらくはタウン誌としては加古川初。まちの問題点を取材した記事から、おちゃらけた記事、サークルの紹介やお店の紹介など知的好奇心に満ちたタウン誌らしい内容だった。読ませるコラムも満載。創刊当初はたしかA4版で隔月発行だったが、やがて季刊になり惜しまれつつも廃刊。制作費捻出との戦いだったともいえる。





西本義則物語

1989年1月発行 A5サイズ40P 無料?

コンビニなどにコピー機があたりまえのように設置されるようになり、ワープロなどの普及とともに小部数のものなら以前に比べて比較的簡単に発行できるようになった。この頃は、全国でも数多くの個人情報誌がつくられ中には全国的に有名になったものもいくつか存在する。この西本義則物語は、発行者個人のいたって日常的なことを、けっして洗練されているとはいえない漫画で綴ったもの。この泥臭さが個人誌の魅力でもあった。制作費捻出に頭を悩ますタウン情報誌を尻目にいとも簡単に書きたいことを書く、やりたいことをやるという個人誌の姿勢にうらやむ編集者が続出した時代。



1986年

1989年

愛eyeはりま (JCかわら版vol.3)

1991年11月発行 新聞サイズ 無料配布

社団法人加古川青年会議所制作発行。表面はまちづくりをテーマにした記事。そしてその中面には新聞見開きサイズの「加古川再発見絵図」が。これは当時のJCメンバーによる手書きの地図で、細かな字でまちの詳細な紹介が書き込まれているもの。これには圧巻。発行から10年以上たつがいろんなお店で貼られているのを見かける伝説的なイラストマップ。

1994年10月には、レガッタを特集したvol.4号が同じく新聞折込で配布された。

何でも創造誌WANDA (ワンダ)

1987年夏 vol.2 B5版1色刷本文18ページ

加西市に編集部を置くHONESTY(オネスティ)というサークル(?)が発行していた。内容はカルチャー系。2号では国際交流を特集。また地元加西出身のイラストレーター永田萌さんのインタビューに京都まで出かけ取材している。地元文化をつくりだそうという意気込みが伝わる情報誌だった。

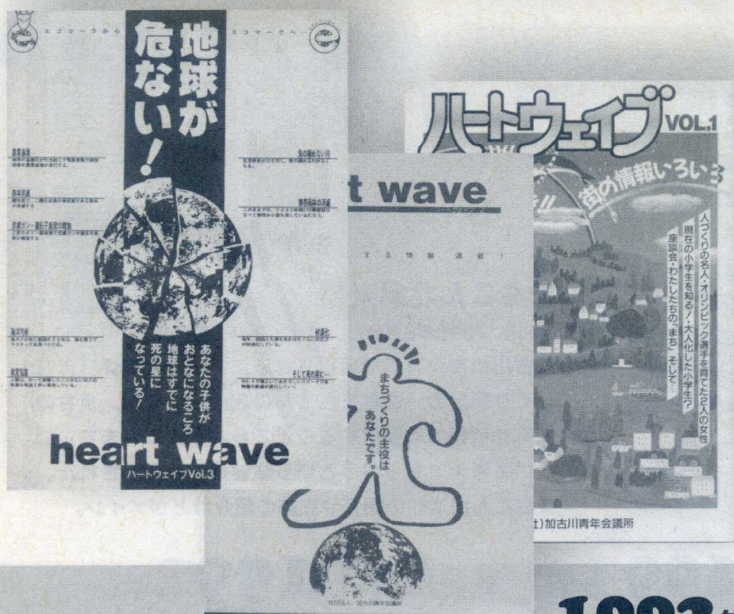


愛・EYE・はりま vol.4
AI HARIMA



メディアを創ろう!

特集



1992年

ハートウェイブ

vol.1 1992年8月発行 A4版52P 無料配布

(vol.2.3は、新聞折込)

社団法人加古川青年会議所発行による情報誌。加古川の「まちづくり」「人づくり」についての情報を発信し、より多くの人に加古川について考えてもらおうという趣旨のもと発行された。1号では主に「加古川の人」をテーマに読み応えのあるものに仕上がっており、1993年6月に発行された新聞サイズの2号では「まちづくり」、1993年11月に発行された同じく新聞サイズの3号では「環境」がテーマとなっている。当時は文字は写植という技術を用いて印刷工程をすすめるのが普通だったが、2号3号ではこの写植を使わず、ワープロ文字で組まれている。それだけ制作コストが抑えられるが、ワープロ文字でここまでできるという見本のようなようでもあった。

ねじ (NO4)

1992年4月(?)発行 A5サイズ52P 極悪税込み300円

コピーやワープロを駆使した個人誌づくりは、さらなるスキルを身につけアンダーグラウンドな文化の一角を形成しつつあった。この「ねじ」も地元で活躍するアマチュアバンドの連中がなにやらわからない衝動にかられ、実に本能的野獣的に制作していたミニコミである。漫画あり、読み物あり、取材記事ありのこった煮状態の中には編集作業というものへのアンチテーゼという毒が盛り込まれている。この編集にかかわっていたメンバーは今なお、全国のライブハウスで演奏しつづけるクールな生き方を実践している。



FREAKS

1986年に創刊した「パラノイドブック」は、サブカルチャーの影響を受け、脱タウン誌宣言をし1988年頃から「フリークス」という誌名に変更。大手の書籍流通に対し、小部数の書籍流通をする「地方小出版流通センター」などの販路に載せ、全国の大型書店で販売。内容も地方の情報をメインにおかず、反大衆的な内容になるが、いぜん地方の広告を入れているという実におかしな体制で発行していた。これは全国的にも珍しいことでミニコミ出版という文化にとって非常に興味深い。B5サイズの本誌は号と号の間が1年以上開き、その間にさまざまな版形の号外を発行していた。阪神淡路大震災の時には号外を発行した。自らを否定しつつ表現について迷走するミニコミ。



We Love You

特撮：池野ロースタージ・ジャスフェスティバル96



Aug. 1996 Vol.39

We Love You

vol.39 1996年7月22日発行 B5版50P 定価270円

たしか創刊は1989年頃だったと思う。隔月間で実に様々なジャンルの読み物を中心に扱っていた。取材に行きって書くというより、本人に書いてもらう記事やインタビューなどが多かった。一時のミニコミのサブカルチャー的な泥臭さや、エネルギッシュさはないが上品な仕上がりになっている点などは、ミニコミの成熟期を感じさせる。40号以降は不定期発行となり徐々にホームページからの情報発信へと移行してゆく。



まちこん北倶楽部

創刊号 1993年8月発行 A4サイズ4P 無料配布

加古川の市民有志で組織されるまちづくり団体「まちづくり懇談会」通称まちこんの北会場が発行。まちの情報を積極的に発信することで多くの人に「まち」について考えてもらおうという趣旨のもと発行された。まちこんの活動の紹介や史跡の紹介などがメイン。

1995年

1993年

1992年

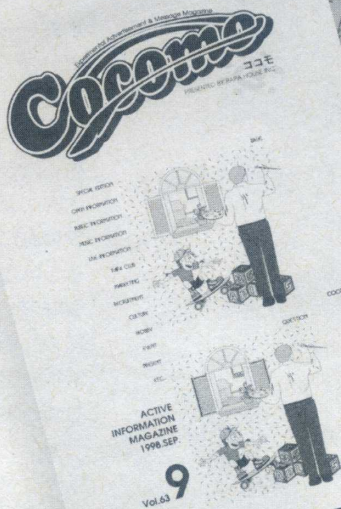
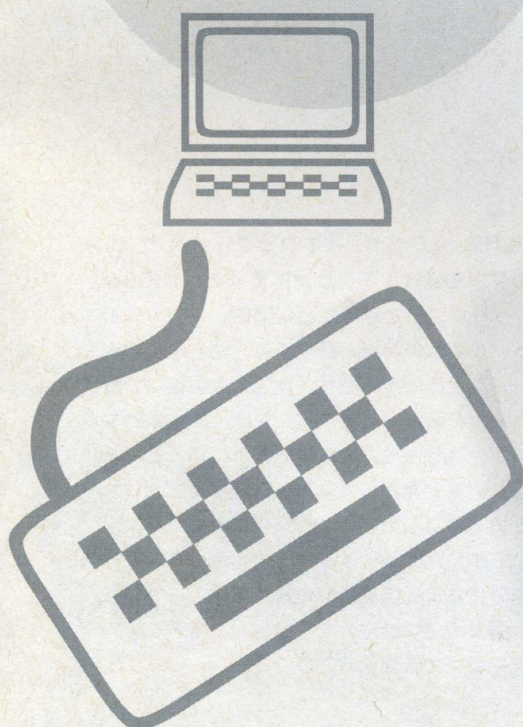
この頃から制作にコンピュータが使われるようになりはじめた。DTP(デスクトップパブリッシング)が徐々に制作現場を変えつつあった。当時の主流はマッキントッシュ。本格的なDTP環境を整えるには100万円以上のお金がかかったが、なんとか手の届く範囲のマックで、プリントアウトしたものを印刷の版下として使うなどして工夫していた時期でもある。

現在のコンピューターやスキャナーなどの値段と性能を考えるとずいぶんと制作環境は整われた感がある。

COCOMO(創刊号)

1992年9月発行 タブロイド版 新聞折込で配布

創刊当時は、新聞折込のタブロイド版として創刊。お店の広告と情報をなんとか融合して、「面白い情報誌であるが、存続のため稼げる」メディアをつくらうと試行錯誤を繰り返す。1994年からは、タブロイド版新聞折込の形態からA5版16Pの情報誌に変更し、協力店で無料配布していた。「売ります・買います」などの個人情報も積極的に取り入れ、読み物記事はサブカルチャー的な味付けもあった。加古川の情報誌として定着したが2002年に印刷物という形態から脱皮。現在はインターネット上で情報を発信している。コミュニケーションの形態を固定化することなく常にあたらしいものを模索しつづけるCOCOMOが今後どのような変化をしていくのかは非常に興味深い。



そして ミニコムは 新しい時代へ

2002年

2003年

ウィンドウズ95が発売され、パソコンは身近なものになった。そして通信環境が整備されるとともにインターネットはしだいに生活に溶け込みつつある。多くの接続業者はそのサービスの一環としてユーザーのホームページを置ける場所をサーバーと呼ばれるコンピュータ内に用意してくれ、またホームページを制作する言語を簡単に操作できるソフトが売り出されるに従い、まるで日記をつけるようにホームページを制作し公開できるようになる。ここで特筆すべきことはそんなインターネットで確実に新しいコミュニケーションは形成されつつあるということ。インターネット時代のミニコム。それは今までとはまったく違った手法でコミュニケーションを確立しようとするだろう。しかし、それは何も新しいことではなく今までミニコムが目指してきた試行錯誤の延長でもあるのだ。

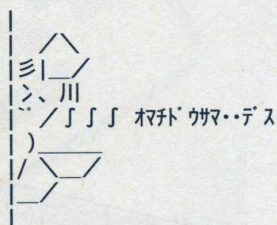
新しい場には文化が生じる

若者言葉とメール

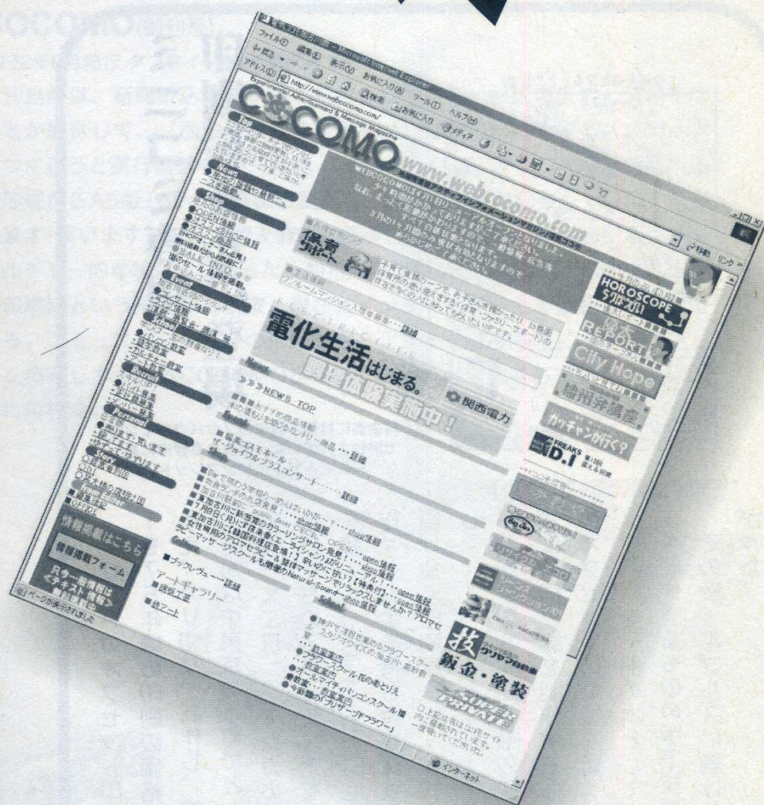
「最近の若者は単語で喋る」。そんなコラムを新聞で読んだ。実はこれはメールという新しいコミュニケーションツールの影響だと思う。パソコンのチャットや、携帯電話のメールではなかなか長い文章を書くのは難しい。最短時間で、あるいは最小の文字で表現するのが適している。チャットは、文字で会話をするので、言葉で喋るのと違い時間がかかる。そこで、「いったらっしゃい」ではなく、「いてら」と短縮することが多い。意味が通じることを最優先にする考え方だ。「こんにちは」は、「こん」でいい。また、顔文字というのもよく使われる。これはかつてパソコンでの通信がカタカナ表記しかできなかった頃に産み出された独自の表現手段だ。もちろん、日本語の乱れを指摘する意見に反論はないが、いずれにせよ、これらは「言葉の乱れ」ではなくパソコン通信というメディアが産み出した新しい文化であることに間違いはない。

＼(^o^)/わーい
(^_^; 冷や汗
(;;)しくしく
(=・エ・=)

←これが顔文字。子供っぽい表現が多いのはそれらの表現はもっとも基本的でシンプルな感情表現だからという説がある。



顔文字は独自の文化として進化しつづけている。これは顔文字から進化したイラスト。→



インターネットココモ

2001年12月で幕を降ろしたココモが、ホームページ上で2002年春から復活。お店のオープン情報やサークルの紹介など加古川の情報を満載。4月からは全面リニューアルの予定だそうで、常に変化しつづけるココモは目が離せない。・・・<http://www.webcocomo.com>

メディアを創ろう!

特集

その年に発行された各町の少年団の広報誌を集めたコンクールに毎年審査員のひとりとして参加している。各町の広報誌にける予算の関係なのか、ある町の広報誌はきつちりと印刷されていて写真もきれいだ。また別の町の広報誌は手書き原稿をコピーしたもの。あきらかに予算のかけ方が違うこの2誌だが、予算に比例して内容が読ませるかというところとも限らない。時には、手書きの読みにくい広報誌の方が、面白かったりする。

つまり、業者にまかせても、そこに「なにかを伝えていこう」という意思と工夫がないと読むのがつらい広報誌になるし、手作りであっても「なんとか伝えていこう」という意思があれば工夫も生まれるし、面白い誌面にもなる。つまり、どれだけ汗をかくかが、まず最初にありきなのだ。

こういった広報誌づくりは、誌面の裏には取材をはじめ多くの時間と労力が必要になる。ほいほいとつくれるものではない。そこで必要なのがモチベーションだ。「なんでこんなことしてるんやろ?」では、絶対にいいものではない。ではこのモチベーションは、どこから生じるのだろうか?

それは、取材から生じるのだ。たとえば、あなたが昨日の日曜日に一日家でゴロゴロしていたとする。次の日、友人と逢う。「昨日何してた?」「家でゴロゴロ」おしまい……。ところが、仮に遊園地に行ってきたとしたら、あなたは友人が嫌がるぐらい喋りまくるかもしれない。誰かに何かを伝えたい、聞いてもらいたい、これが取材から生じるモチベーションだ。

では実際のところ、取材とは何だろうか?これは料理にたとえると解りやすい。取材とは、材料の調達のことだ。材料がなければ、いくら腕のいいシェフでも料理はつくれない。しかし、おいしくて新鮮な材料を調達できても、編集という調理がまずければ材料は台無しになってしまう。ひとりよがりでは、遊園地の話を友人は聞いているうちに眠くなってしまうか、もしくは嫌がって聞いてはくれないだろう。

また古い材料を使っても、おいしい料理はできない。

よく自分の趣味や興味のあることについて延々と喋る人がいるが、多くの場合その話は退屈だったりする。これは人に語る前提で情報集めという取材活動をしていないから起こる。人は自分の興味のある事柄については実に偏った情報の集め方をする。また、人の記憶は自分の都合のいいように「嘘」をつくものなので、自分のよく知っていることであっても、情報を再度集めなおすという作業は必要不可欠なのだ。

人を相手に取材をする場合は、さらなる注意が必要になる。ほつとかこがわでもよく見られたことだが、相手の言ったことをそのまま書いてくる。これでは取材ではなく、代筆になってしまう。その人に聞いたことはあくまで材料の一つにしか過ぎないのであって、そこからさらに自分で情報を集める必要がある。

あらゆる表現は
体験から産まれる
フィールドワークが
しつかりしていれば
書きたいことは、
山のように出てくる

材料を

実践講座

集める

あがり

配布

できあがったものをどう配布するかも重要。知り合いの店に置いてもらうときもちゃんと感謝の気持ちを忘れないように。よく、ポスターを貼ってもらうのをお願いして、そのまま貼りっぱなしになっているのを見かけますがこれはダメ。

編集

編集とは積み上げていくものではなく、削りおとしていく作業だ。それは石を削り、仏を浮き彫りにする作業に似ている。いらぬ情報をどんどん捨てていく。

制作

ホームページなら、それ専用のソフト、印刷物ならレイアウト用のソフトを使う。使い方は本屋さんや図書館にマニュアルが山のようにあります。印刷物で印刷屋さんで印刷してもらう場合はデータの作り方が全然違うので、それなりに勉強しよう。

取材・情報収集

料理にたとえど何をつくるかというメニューを決めることにたとえられる。誰に何をどう伝えるかはこの段階の取材では考える必要はない。まず自分の頭の中でおおまかな地図が組み立てられなければ情報発信で一番大事なモチベーションが沸かないからだ。

取材・情報収集

ラフができたら、そのラフを具体的に埋めるための取材と情報収集にあたる。これが本当の取材、食材探しだ。もちろん取材の途中でさらなる興味や載せたことがでてくる可能性は大だ。そのときはラフに立ち返り柔軟に対処すればよい。

ラフ制作

メニューが決まればかんたんなラフを書いてみよう。本文は書かなくてもいい……というかこの段階では書けないが、タイトルや見出しは書けるはずだ。思いつくまま書いてみよう。写真などもなくてもいいからここにどんな写真を入れたいかを書いておく。



どうすれば、イイ文章を書けるのかとよく質問される。たしかに、上手な文章の書き方を指南する本がたくさんあるので、そこにはなんらかの法則性というものが存在しているのだろう。

だが、そんな本を書いている本人さえも、その法則性をいちいち考えながら文章を書いているわけではなく、あくまで「後から考えたところだった」という結果論ではないかと思う。

だからあえてここでイイ文章を書くのに法則性など無いと言ってしまう。

イイ文章を書くには、とにかく書きはじめることだ。

そしてそれを家族でもいいし、友人でもいいから読んでもらう。そこで、感想をもらおう。

文章はだいたいにおいて一人よがりなものだ。それは他人とする会話にも似ている。

以前、僕は一ヶ月ほど入院したことがあるが、退院後逢う人に何回も自分の体の状態を説明しなければならぬというはめになった。正直、わずらわしいのだが、心配してくれているのかもしれないので、「もう何回も喋ったことだ」と怒るわけにもいかない。

が、何回も同じことを繰り返し喋っていると、だんだん喋る内容が練れてくる。

似たような経験は誰もあると思うが、相手の反応に合わせて喋る内容は、より面白く、より解りやすく微妙に修正されていくのだ。

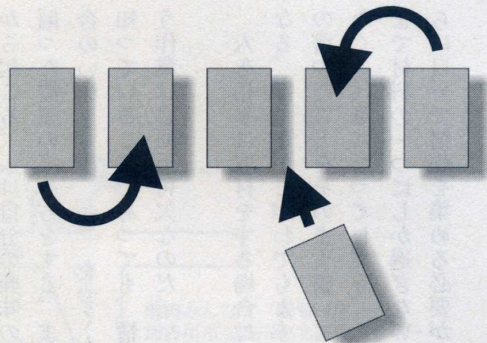
文章もそうである。読んでもらうことで練れてくる。この経験を積み、最初からイイ文章が書けるようになる。

が、人に読んでもらうためにイイ文章を書こうと気負いすぎてはいけない。ほつとの原稿にもそ

ういう文章が多いが、イイ文章を書こうとするあまり、いきなり「すすきが頬を撫でていた・・・」なんて書き出しではじまつたりする文学的な文章が飛び出してきたりする。

文学的すぎて、何がしたいのかさっぱり解らないということが多いのだ。

文章はまず、人に何かを伝えるというのが大前提にある。「すすきが頬を撫でていた」のは、その大前提のオカズでしかない。オカズが多い料理は嬉しいが、食後に何を食べたのかさっぱり思ひだせない。オカズの多いドラマの叩く音は、ウルサイ雑音にしか聞こえない。



イイ文章を書こうという気負いがオカズを多くつくりだす。そこでそれを阻止する方法がある。まず、伝えなければいけない重要なことを箇条書きでもいいから書いてみる。この段階で完成された文章になっている必要はない。できれば名刺大の大きさの紙に伝えたいことを1つの区切りごとに1枚という単位で書いてみる。

伝えたいことの数だけ名刺の紙ができることになる。それを前後に並べなおして骨組みをつくり、その間をつないで最終的にひとつの文章にしていく。この作業をしていけば捨てるカードもでてくるだろうし、新たに追加するカードもでてくるだろう。

この方法だと、オカズが主になる気負った文章という呪縛から逃れることができる。慣れてくれば、この方法を頭の中のできるようになるし、パソコンだと前後を入れ替えるのも楽である。またおのずか文章には「起承転結」ができあがる。

相手にいかに伝えるか
その試行錯誤の中に
イイ文章の書き方という
法則は隠れている



イイ文章の 実践講座 書きかた

メディアを創ろう!

昔あるところに、畑を耕すことしか能がない男がいた。その男はひとりで畑ばかり耕している。しかし、畑ばかり耕しているから、住む家もなければ着る服もない。ただ、収穫された野菜だけは山のようにあった。男は嘆いた。「ああ、俺は畑ばかり耕しているから何もできない。住む家さえない、不幸をしょっている…」。

また、別のところには家をつくることしかできない男がいた。家をつくることしかできないので、いつも腹をすかせている。男は嘆いた。「ああ、俺は家をつくることしかできないから、こんな大きな家に住みながらも腹が減ってしまったが、俺はなんて不幸なんだろう」。

あるとき、2人のところにミニコミ屋さんが情報誌を運んできた。その情報誌には山の向こうで腹を減らせている人がいることや、山の向こうで家求めている人がいることが書いてあった。

そして2人は出会った。不幸と幸せを分かちあうことで、そこに「社会」が誕生した。

この話は、社会と情報についてのひとつの寓話だ。人本来はそれぞれにデコボコした存在だ。ジグソーパズルのひとつのピースのように、特化した部分があれば、凹んだ部分もある。が、それが繋がればなかなか崩れないジグソーパズルになる。もし、ジグソーパズルのひとつのピースが真四角だったらどうだろう。無くしたピースは他のピースで埋めることが簡単にできるが、全体のジグソーパズルはちよつと揺らしただけで脆くも崩れてしまうだろう。

人はいつでも、情報を求める生き物だ。それは人はひとりで生きられない生き物ゆえの本能だと思う。どんなに人嫌いな人でも情報には接していたい。なぜなら、その情報の向こうには人がいるからである。そう、その人は人が嫌いなのではない。人との付き合い方が嫌いなのだ。

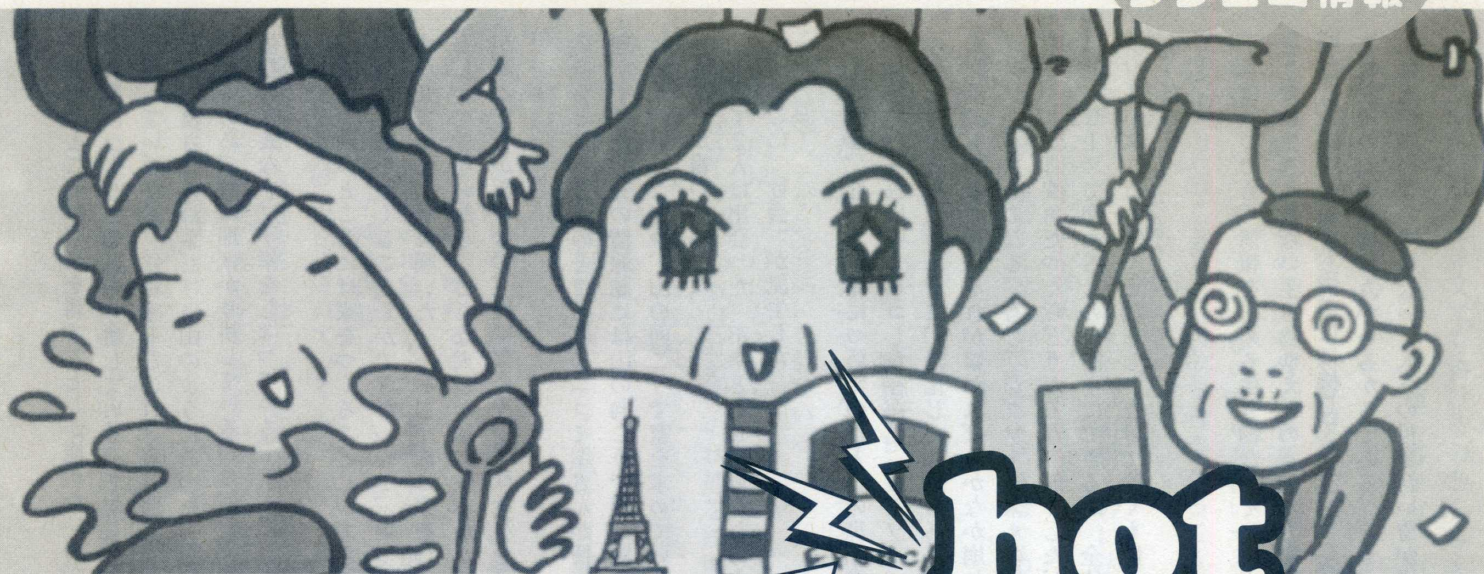
今、社会は人を真四角なピースとして捉えている。誰もが良き社会人としての顔を持ち、デコボコしないようにうまく立ち回っている。しかし、そこに人と人を結ぶメディアが存在するなら、この寓話のように誰もが自分が抱える不幸と幸福をシェアし、共に暮らす社会が構築できると思う。

人は誰でも、情報を求めているのだ。

互いの個が、互いに認め合い
互いに補うことで社会は構成される
互いの個を繋ぐために
そこには媒体が必要なのだ
それは言葉や身振りはもちろんのこと
情報を運ぶ道や船が必要なのだ

メディアの意味

メディアは今何をするべきなのか



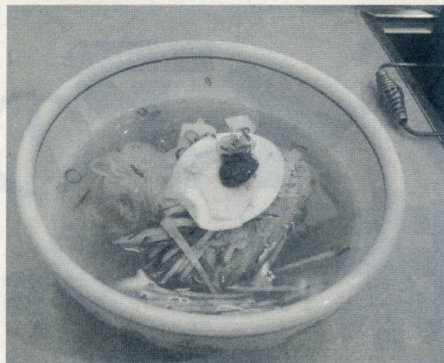
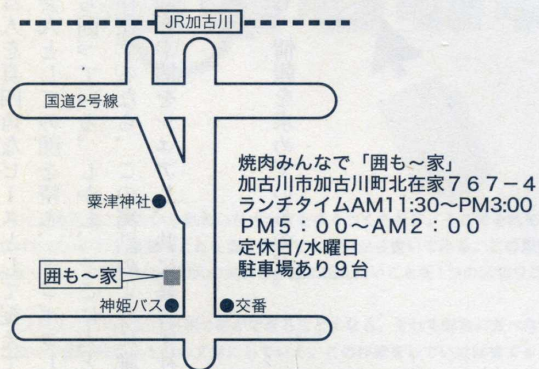
hot news

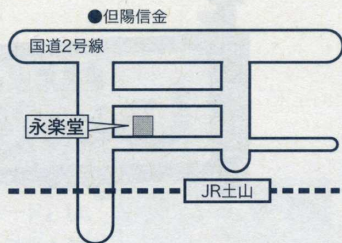
**熱意が伝わる焼肉屋さん
焼肉みんなで「囲も〜家」
店名どおり皆で囲みたい**

おいしい石焼きビビンバを食べさせてくれる焼肉屋を探し求めて、行き着いたこのお店は、若い夫婦が経営するさわやかな空間だ。

尼崎や神戸で、住み込みを含め13年の修行を積み、自分の店をもった、方英哲（ほうえいてつ）さん。ホールを担当する奥さんは、育児との両立に大奮闘だ。厨房につけられた小窓から、忙しく立ち働く母の姿を追うことも、のんびり焼けている。

メニューの中の「ヘルシーセット」（2名様1800円）は、牛の胸部の肉、ブリスケットとブルコギ、サンチュ、ナムル、キムチと盛りだくさん。肉の鮮度管理はもとより、たれをはじめ、ホルモン、ひとつひとつにオリジナルな味付け、人員にゆとりができてきたら、冷麺やビビン麺の麺を手打ちしたいという、彼のよどみない熱意を、あなたもぜひ味わって欲しい。





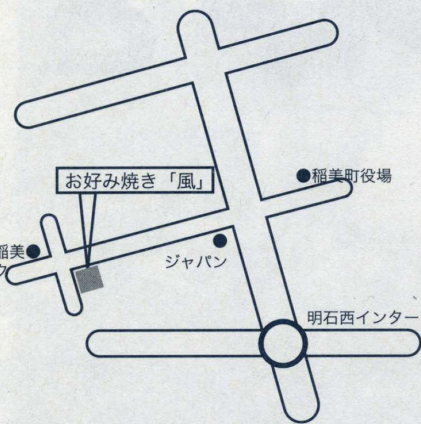
永楽堂土山駅前店
加古郡播磨町野添1617-10
TEL078-944-3020
営業時間10:00~18:00
定休日/日曜日

素朴でどこか懐かしいおせんべい
スローライフな店内
おしゃやかな大人の駄菓子って感じ

JR土山駅を降りて、線路に沿って西の方へ行くと、入口に紺色の生地が地面まで引っぱっているのが目を引く店がある。

ここは去年の2月にオープンした、おせんべいの店「永楽堂」。中に入ると3坪ほどのスペースの中に、明石名産たこせんべい、たこカステラ、たこまんじゅうなどがちりめん生地をベースに並べてあって、蛇の目傘や小物、店内の日よけにしても、すべて見るだけで色使いなど可愛くて、趣がある。時間忘れて気分も落ち着いて、いやしてくれる店。

店主は「例えば私がお店に行つて選んでいたら、いかがですか?」って言われるより、ゆつくり見たいし選びたいから何も言わないんです。又、色々欲しくてもお値段の都合もあってよし、箱に詰め合わせも出来ますし、とにかくゆつくり選んでもらってほしいの」と、穏やかな笑顔で言われました。



お好み焼き 風 (ふう)
加古郡稲美町岡岡3丁目6-6
TEL0794-92-7708
営業時間11:30~14:30
17:30~22:00
定休日/木曜日

また、「風」からの提案で、お好み焼屋で宴会気分が味わえる「風セット」一人1500円

- ①スモークサーモン
 - ②スジこんオムレツ
 - ③野菜炒め
 - ④サラダ
 - ⑤砂ずり塩焼き
 - ⑥豚ねぎうす焼き
 - ⑦えびマヨネーズ
 - ⑧イカ塩レモン
 - ⑨グリルドチキン
 - ⑩焼き餃子特製みそダレ
 - ⑪ソフトアイスorコーヒー
- メニューは変更する事があります 4名様以上から受付要予約

え! お好み焼屋で宴会ができるの?
去年2月オープンの「風」で、お好み焼きコースかな?と思つてたら、全然違った。

オードブルからはじまって、刺し身や餃子など和・洋・中華とどんどん出てきて……もうお腹一杯いう時に少し太めのそば焼といか玉とすじ玉のお好み焼き。

どうしよう食べられるかな?と思つたけど、意外なことにみんなでいたらやはり食べて、最後にコーヒ。普段みんな体重オーバーを気にしてるのに、その時ばかりは誰も何も言わずひたすら食べていた。

クリスマス時期もあって、オードブルの中央にはサンタクロースの人形が。見た目も充分楽しませてくれる。

元ホテルの料理長だったオーナーの心遣いがうかがえる。

とにかく手頃な値段でびつくり。

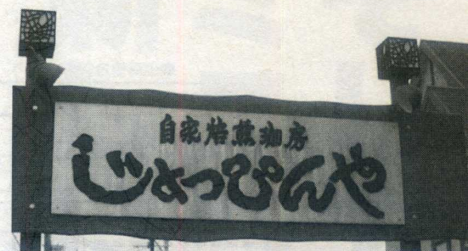
予約の申し込み時に予算を言つて、オーナーにお任せすると間違いなし。

お好み焼きで
宴会のススめ
元ホテル料理長の
腕自慢宴会メニュー



「にくてん焼」とろりとした薄焼タイプの「お好み焼」「ねぎうす焼」醤油味でレモンを絞ってあっさり、酒のあてにも合う

もちやチーズなどトッピングも出来て、電話での注文や持ち帰りもOK!



コーヒー豆と 人の生き方



香りがいつまでもまとわりついてきて、ナ

イシヨにしても、「じゅっぴんや、行ってきたでしょ」と、ばれちゃう喫茶店。ちよつと苦いめの(深煎りの)コーヒーながら、口当たりがよくて、ふつと香りが鼻にぬける快感。

軽い気持ちで取材に行つてびっくり。淡々と語るマスターの話に、いろんなことを考えさせられて帰ってきました。

美味しいコーヒーは、

なんととっても原材料

一番重要なのは原材料。どんなによい道具をそろえても、入れ方に気を遣つても、豆がよくなければ美味しい物はできません。良い包丁と板さんがいても、肉や魚が悪ければ、美味しい料理はできないのと同じです。その良い豆を、世界各地から取り寄せます。できる限り情報を集めて、完熟した豆を、きれいな水の設備のある場所から、公正な取引で、輸送にも気を遣つて取り寄せます。フェア・トレードでいきたいと考えます。

豆の価格について

今世界的にコーヒー豆は安い。安いからといって、一概に喜んでばかりはいられません。生産者は買いたたかれて、やる気を失つてしまいました。収穫量を上げるために、熟さないうちから取り入れたり、質の悪い物が多く出回っています。でも、日本人は味がわからないから粒の大きさと、ゴミが混ざっていないければよい豆として買ってくるんです。

日本におけるコーヒー豆の規格には、①輸出する港の名前、②石などの混ざり物の有無、③粒の大きさの3つしかありません。味についての規格がありません。ブラジル国内で流通するときには、味の規格もあるのに……。

もてなす心

食器

行くたびに違うカップ、同行した人とも違うカップでコーヒーが出される。「その人に合わせて、カップも選んで出してくれているのか?」という問いに、「それは当然です。お客様の様子を見ないでお出するというこ

とは、考えられません。」とさりとおっしゃった。

毎年、全国の窯元を訪ねて食器を買い付けてくる。土物がお好きとか。

ケーキ

美味しいケーキは、奥様の手作り。これ、と決まったケーキでなく、季節を感じさせるケーキが何種類か用意される。

豆の販売と

美味しいコーヒーの入れ方講習

豆も販売してくれる。豆は、焙煎してから一昼夜ぐらいたった物が味が落ち着いて美味しい。毎日、翌日の分を焙煎している。

希望すれば、美味しいコーヒーの入れ方講座も受けられる。決してお話好きとは思えないマスターが、語り出したら止まらない。コーヒーの歴史から、豆の性質までもおもしろい話が聞けそう。おもしろさは企業秘密ではないらしい。その後、その場で焙煎した煎りたての豆で、美味しい入れ方講習となる。

木王様は何十年何百年という歳月を、
至に木王様を真と創り、園を築は
大いなる歌と至に主と器と創り
ます。
素版を見、活字の技量とせらるる
活字の感性、作事と創りあいます

私達も大地に育ちました。豆
の、自然が育ててくれた素版の味と、
あすこを目指して、います
「素版に響く」といわれます
「豆は、何となく生かしてさだめだろ」
「何を求めるか、
と考へます」

その情熱が、豆と人をつなぐ。木王様
の、抽出とします。
豆は生かす。木王様、木王様と変えます。
木王様、そのと活字の技量とせらるる
活字の感性、作事と創りあいます

フェア・トレード

「フェア・トレード」は、世界経済や流通システムの歪みによって貧困に追いやられている発展途上国の人々を支えるために始められました。



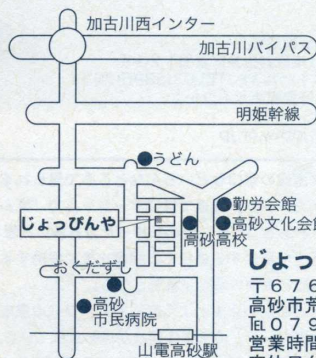
寄付や援助とは異なり、立場の弱い人々が正当の報いを受け、誇りを取り戻して自立することを共に目指す、対等なパートナーシップによる貿易です。フェア・トレードでは、公正な賃金を払い、必要に応じて代金を前貸ししたり、継続的に安定した発注をして生産者の人々を応援します。また、生産地で豊富に採れる原料や伝統的な技術を活かしながら、広く消費者に受け入れられる商品を開発するために、デザインのアドバイスやマーケティング情報を提供します。環境に負荷をかけない持続可能な方法で作られたフェア・トレード製品は、作る人にも、地球にも、そしてそれを身につけたり食べたりする私達にも優しいのです。

通販カタログ&エコロジーマガジン「ピープルツリー」より

正々堂々と、真摯に
安く物を買いたい、という要求がある一方で、安全で良質の物を手に入れたい、という要求もますます大きい。大手メーカーの不正偽装工作が次々と明るみに出たり、草食動物に、肉を食わせるような飼育がまかり通る現代で、本当によい物を手に入れるためには、世界中の農園のリサーチから、輸送、保存、加工、全てに気が抜けない。同じブラジルの豆でも、産地によって出来が違う。年によっても出来が違う。いろんな角度で検索をかけて良い豆を求める。メディアの発達が可能にしたとはいえ、それを、こんな小さな個人喫茶店が誠実にやってのける。地球環境のこと、世界平和のこと、人の生き方まで考えさせられた。

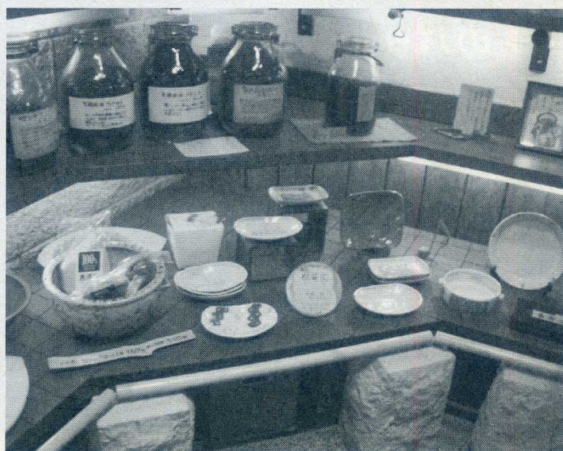
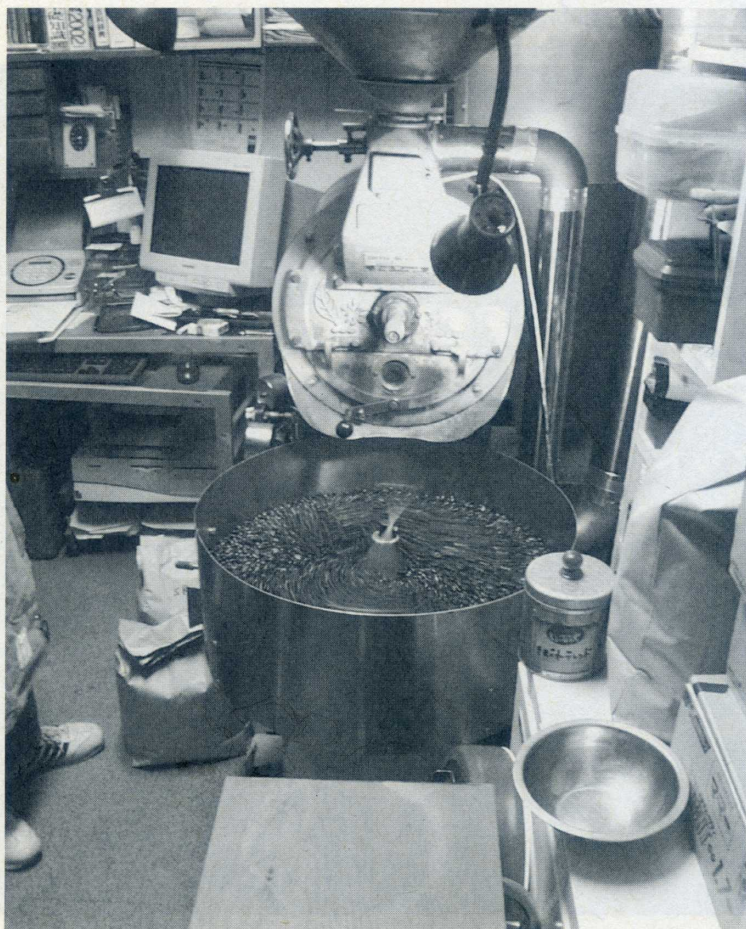
さて、ここまで本質を追求したコーヒー、

マイルドブレンドで1杯450円、一般的な価格になっています。
コーヒーをお試しになったら、その次は、カレー、スバゲティ、焼きめしもお勧めなんだよ。



じょっぴんや

〒676-0013
高砂市荒井町蓮池2丁目1-22
TEL 0794-43-2922
営業時間 8:30~18:00
定休日/月曜日



伊藤和世フルトリサイタル

―腎不全と共に生きる―

難病と闘う子どもたちへ
チャリティーリサイタル

2002年10月13日(日)、加古川ウエル
ネスバークアラベスクホールで「伊藤和世フルトリサイタル」が開催された。

1部、2部、3部とそれぞれ特徴のある選曲で、伴奏にはチェンバロを始め、ギター、フルート、ピアノと、電子楽器を入れない、全て生の音で構成されているのが印象的だった。

伊藤さんご自身も、慢性腎不全により平成13年6月より透析を導入。腎不全と共に生きながら、難病と闘う子どもたちへのエールと祈りを込めた演奏は聴衆の心打った。

コンサートでは、腎不全を完治するためには移植しか方法がないこと、アメリカでは、透析は、移植を待つ間のつなぎの治療としてとらえられていること、臓器移植後進国の日本では、まだまだ移植例が少なく、現実には透析による治療しかないことなど、意外に知られていない腎臓病治療の現状なども話された。

↑アンコールで演奏された「マイウェイ」に涙涙…。
←ロビーでは「腎疾患総合対策」の署名と募金も行なわれた。

●(社)全国腎臓病協議会
〒171-0031 東京都豊島区巣鴨1-20-9
巣鴨ファーストビル3F TEL03(5395)2631
●(社)日本臓器移植ネットワーク
TEL0120-78-1069
<http://www.jotnw.or.jp>

た。

また、「臓器提供意思表示カード」による、脳死、或いは心臓停止後の臓器提供意思表示の呼びかけ、全国腎臓病協議会の「腎疾患総合対策」の署名と募金なども行われた。

日本での移植が可能になれば、たくさんの命が助かることを知って頂いて、そして少しでも協力したい、という意志のある方は、左記へご連絡またはホームページもご覧ください

最近ではコンビニや公共施設の窓口などいんなところで見られるようになった「臓器提供意思表示カード」。最近ではコマーシャルで「死んでからの生き方」というインパクトあるコピーに関心を持った方も多いと思う。臓器の提供には、脳死下で提供する場合と心臓停止後に提供する場合があるが、どちらも本人の意思と家族の承諾が重要となる。そこで、いざというときのため家族とよく話しあい、自分の意志を伝える手段として「臓器提供意思カード」の携帯の普及が進められている。で、この意思表示カード。実は様々な絵柄があるのをご存知ですか？また、意思記入面の内容とドナー情報連絡先が明記されていれば、絵柄については規制がなくオリジナルデザインのカードを製作することも可能だそうですよ。詳しくは社団法人日本臓器移植ネットワークまで。

hotkakogawa.com

※表記のドメインは(仮)のものです。

「ほっとかがわ」が、インターネットサイトとしてオープンします。
過去のバックナンバーより抜粋した特集記事や、加古川周辺のほっとな話題を集めて現在鋭意、制作中。



練習がはじまると公民館がたちまち別の空間のように空気が変わる！

詳しくは、
TEL0794-26-0289
石本さんまで

お能の練習仲間求む 現在、観世流の先生から マンツーマンで月2回練習中

とかく難解と思われがちな「能」が静かな人気を呼んでいる。鑑賞はもちろん、自らが舞ってみたいと考える人も多い。今までは直接プロに弟子入りをするというのが一般的だったが、各流派や能楽堂などが教室を開講するなどでぐんと身近になった。

野口町の石本彩子さんも「能」の魅力にとりこになった一人だ。石本さんは大学生の時、サークル活動で能とであつた。そして卒業し

た今でも、何とか続けたいと、月2回平野公民館で、観世流の吉井基晴（もとはる）師に甲子園から来てもらって練習を続けている。生徒は今のところ石本さん一人のマンツーマン。

「古典芸能と言っても、おおよそは変えないで、現代に応じた新しいものに変わっている」とのこと。

能の基礎は「仕舞（しまい）」と「謡（うたい）」。仕舞の基本である「立ち」の姿勢はへその下に集中する。いわゆるハラが据わった状態。これは人間形成の大きな手段とも言われている。

一時間余り見学させてもらったが、ピンと張り詰めた空気の中。自分自身も背筋が伸び、すがすがしい気持ちにさせられた。なるほど、もしかしたらこの空気、日常に張りをもたらずこの空気が能の魅力だと納得した。

「ぜひ興味のある方は一緒に習いませんか」と石本さん。まずは練習の見学だけでもOKだそうだ。

なるほど探検 無洗米 洗わなくていいだけじゃない 栄養面もバッチリ

今、ブームの無洗米。私達は無洗米といえ、お米洗わずに水入れてスィッチ入れるだけと思つたので、仕組みがわからずじまい。そこで、お忙しいのを無理にお願いして、株式会社コープライスセンターの笹倉さんに、長時間お話を案内してもらいました。水を加えるだけで炊ける無洗米とは？

1. 洗わずに炊ける

新製法のBG精米製法とは、Brand（ブランド）のGrind（グランド）（削る）のことで、天然の米ヌカでお米を研ぐのと同じことを精米の段階で済ませ、手で洗米しただけでは取れないヌカを衛生的に除去しているの、研がずにそのまま炊ける。

2. 栄養面では

水で洗わないから、ビタミンB1や

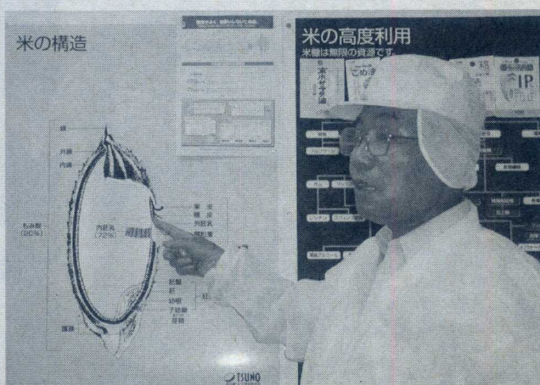
ナイアシンなどの栄養素が流出せず、またお米のうまみ層があつて、健康にプラスになるお米です

3. 環境にやさしく、水も節約

環境汚染の原因である、とぎ汁が一切出ないので河川や海を汚すことがない。（この頃キャンプ場でも無洗米と指定している所もある）また、水道代も節約できて経済的。精米でとれたヌカも有機肥料などに再利用している。

保存方法も普通のお米と一緒に、高温・多湿を避ける。

炊き方はヌカを落として分、同じカップを使用するとお米が余分に入るので、普通のお米に比べて水を、5〜10%多く入れる。



劇団OVER



劇団OVERの団員達は全員平岡中学の出身。

団長の壹橋知世(いちしともよ)さん(17才)は、お芝居が大好きでCMやドラマのエキストラに出演した経験があるという。団員をまとめ、リーダーシップをとり、ひとつの芝居を完成させていることへの情熱と、後輩達を思いやることを自然体でやっている気がした。

副団長の竹内雅子さん(17才)は脚本を担当し、演じ手のひとりでもあり、ものを書くことと演じることふたつの異なった表現方法に挑戦し、又学校では生徒会活動にも参加し多忙な日々を過ごしているのだとか。

演劇部活紹介を見に行き、音楽部に入る予定をしていたが、「好きかもしれない」と思って入部したという木村友香(ゆか)さん(16才)。幼稚園の頃から歌が大好き。小学校6年生の時、劇団トーハイに入ったという近藤園恵さん(16才)。

森本あゆみさん(16才)も部活紹介を見に行き、先輩達のダンスのかっこよさに魅了されて入部したという。

橋詰美紀さん(16才)は、小学校5年生の時にWithという演劇の市内大会を観に行き、感動したのがきっかけ。

劇団OVER ホームページ...<http://www.eonet.ne.jp/~our-best-stage/>

数人のみで劇団を立ち上げ、公民館の一室で、舞台に立つ日を思い描きながら、練習を積んでいる高校生達がいると聞き、若いエネルギーに触れたくて、期待に胸を膨らませ、平岡公民館を訪ねました。

各団員達が、音楽やダンス・演劇に触れ、感動し、まねてみたり、自分もやってみたいと感じているのが10歳前後もしくはそれよりも若い頃だというのにやや驚いた。

こどもの小さな頃に五感を刺激するような機会を与えることが、そのこどもが後々情熱を持って何かに取り組む礎となっているのかもしれない。

彼女達は配役や演出、脚本も全員で話し合

い、どの団員もお芝居を創り上げていく上で、のあらゆる要素に各人が参加するという。今回取り組んでいる作品は「月を探す」。原案は詩だそう。インターネットで発見した詩を元に、団員一人一人が台本を作っている。詩の作者に許可をとる作業も忘れてはいない。

このお芝居は「場面ごとにお話が違ふ、オムニバス形式で進んでゆき、テーマは「月」。「各団員がオリジナルな台本を書いているのでストーリーは内緒ですが、今までとは違ったおもしろい劇ができあがると思います」というコメントをもらった。

りんごの木とひょうたん

加古川

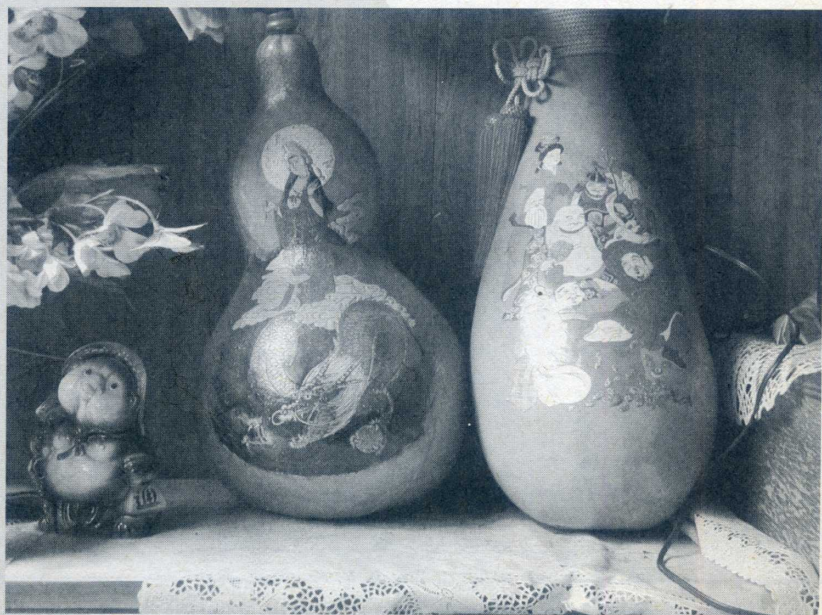
「自転車でブラ〜リ」が大好きな私(ほんとは車乗れな〜い)。一日一回は目的無くても自転車で発見探し。その途中、りんごがなっているので一瞬本当にりんごかな?と思って自転車止めて見るとりんごです。それほど大きくない1.5m位の木に15個位ぶら下がり、下にも落ちて、神鍋の方だったりんご園って知ってるけど...加古川で珍しいかな?

国道2号線から南で野口町良野の高田宣計さんのたんぼの横に植えてある。

「5年前主人が近くの園芸店で買って来て、ちゃんと袋をかけて防虫したら、毎年なっとういしいです。銘柄はふじです」と奥さんにお聞きしました。

りんごの木を見てすぐ近く、ひょうたんが庭先にたくさんぶら下がっているの(一歩外に出ると気になる事がたくさんある)、ひょうたんをつくられてどうされるのか、野口町良野の向畑如洋(むこうばたまさみ)さんの奥さんにお話をお伺いしました。

ひょうたんは4月に種を植えて、苗に電気を当てて大きくし、8月のお盆の頃ひょうたんの色が茶色く変わってきた時に取る。中味を腐らせて種をとるために、先に穴をあけて水につけておく。種が抜けたら陰干ししておく。乾燥したら表面をサンドペーパーで磨いて、丸みの所に「七福神」や「宝船」や「布袋さん」の絵を描いて吊るしている。穴をあけたひょうたんの蓋と吊るす紐は、近くで手に入らないから、わざわざ福知山から取り寄せるそうです。趣味もここまでなると本物です。



加古川おやこ劇場

加古川おやこ劇場は、「子どもたちに生の舞台を私たちの町で観せたい」「地域の楽しい活動の中で、子どもを育てたい」と願うお母さんたちの思いで、1974年11月全国で116番目の劇場として生まれました。

平成12年、加古川市制50周年の際には、日頃の活動に対して感謝状をいただきました。

おやこ劇場は、プロによる生の舞台鑑賞をする「例会活動」と、自分たちがしたいことを持ち寄って、自主的に関わり創り出す「自主活動」を2本の柱として活動しています。

楽しい舞台との出会いは、心を豊かにたくましく、そしてやさしくしてくれます。また、映画会、バレーボール大会、高学年キャンプ、こどもまつりなどの活動は、多くの仲間とひとつのことを成し遂げる喜びを実感し、その体験を通して、社会性、自主性、創造性を育みます。

おやこ劇場は、親と子が共に育ち合う「親育ち、子育て」の会です。加古川中の子どもの健やかな成長を願って、更に活動の輪を拡げていきたいと思います。

例会の予定

人形芝居 '03
1月11日(土) 会場...加古川市立中央公民館
＜低学年例会＞
おなにかうまにまで
おなにかうまにまで

人形劇 '03
1月25日(土) 会場...加古川市立中央公民館
＜高学年例会＞
雪さんな
雪さんな

芸能他 '03
4月6日(日) 会場...加古川市立中央公民館
＜全体例会＞
ピエロ Mime Fantasy
PAC/乳マイム工房

入会申し込み・お問い合わせは
加古川おやこ劇場
加古川市加古川町寺家町3丁目
TEL 0794-21-3269



2002年4月に行われた「第15回こどもまつり」の様子。

空手教室

夢はオープントーナメント

「誰にでもできる空手です」なんて簡単に言われても技を磨かないと、と思つてたら、男性は体力づくりに、女性は護身・シェイプアップに最適！で年少部があつて、女の子もOKです。新日本空手拳法連盟正武会館加古川支部長、中川透さんは昼は会社員で夜は空手の先生です。

気軽に見学して下さいと言われたので、中部中学校の武道場に行くと、異年齢で、はじまるまでワイワイガヤガヤ。でも中川先生が前に行かれると、ピシッと決まってみんなの目も違って真剣そのもの。帯も上から黒・

茶・緑・黄・白と5段階あり、練習生はやはり帯の段階を一つでも上げたいと言って、汗いっぱいかいて頑張っています。
中川先生は3つの目標があつて、
①チャレンジ精神を持つこと②人との出会いを大切にすること③気持ちを停滞させないこと。

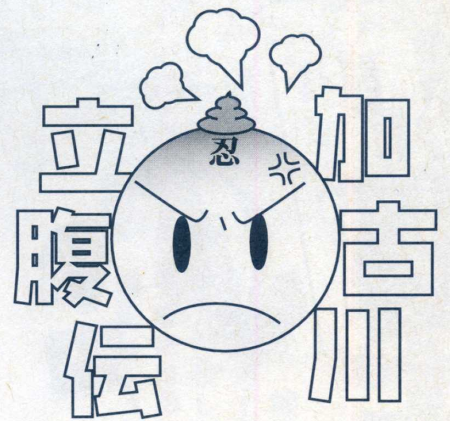
夢はオープントーナメントに参加出来る練習生が育ってほしいと、空手への熱意が痛いほど伝わってきました。現在メンバーは13人で練習生募集中です。



正武会館加古川支部長 中川 透
TEL 090-6556-3171
中部中学校武道場
毎週水曜日 19:30~21:00
入会費 ¥5,000
月会費 ¥5,000
http://www.2117.ne.jp/~johryoh/seibu_kakogawa.html

hot talk

読者と編集部
の井戸端会議



雨の日は無神経な車の運転
美女がビショビショやん
け!

私は通勤に、駅まで自転車を利用し
ていますが、雨が降った日は最悪。稲
美町の「六分一」と「岡」の間、特に
川重の前の道路。

車がスピードを落とさず、ビュン
ビュン飛ばすので頭の先から雨水か
ぶって、情けないやら腹立つやら...。
メイクしても美女台無しや、泣けてく
るわ。みんながみんな車違うで、自転
車見たら徐行して。



自動車は
そんなにエライんか!

私は、通勤に車を利用してますし、
休日にも買い物など車の運転は好きなん
ですが、運転者のマナーの悪さには腹
立ちます。平気で信号無視、細い道で
対向車を待たせていても知らん顔で通過。
最近一番頭にきたのは、一方通行を通
行中対向して車が来て、相手が違反し
ているので道をゆずらないでいると、
にらみつける様に見て行く。知ってか
知らずかわからないが、そんな事が平
気で通ってる世間全体が変な気がして、
『ぜったいおかしい!』と叫びたくな
ります。

28歳OL

匿名希望 41歳 看護師

高御位山 ハイキング





姫路ナンバーの車って、マナーが悪くて有名って話は本当なの？

加古川って暮らしやすいと思う。どこでも自転車でもよいちよいと行けて、ここは中国か（行ったことないけど）ってくらい自転車が多いし、それが便利。でも、自動車に乗るとね、一方通行多いし、道は狭いし、なんんか怖いなあ、と思ってた。

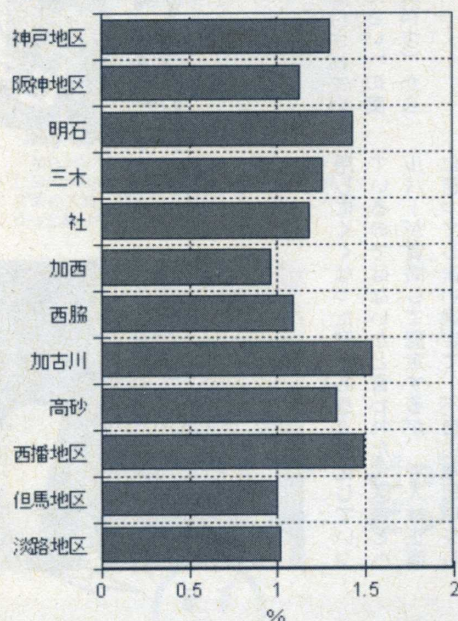
先日、免許の更新の講習で（えへへ、捕まっちゃったんだヨ）資料見てびっくり。加古川って、めっちゃ交通事故、多いやん！いやいや、人口が違いうから単純には比べられへんやろと思って、免許保有者比を出してみました（グラフ）。加古川の交通事故、やっぱり多い〜！西播も多い〜！どっちも姫路ナンバー？

西宮から来た友人が「交差点はお互いに停車して譲り合うモンやと思うとったけど、加古川の交差点はつつこんだ者勝ちや。度胸付いたわ」って言ってた。度

胸つけてどないすんねん。でも、笑い話と違って加古川の交通事故の37.6%が

出会い頭の事故（平成14年9月末ミニ白書）。県下平均の25%を大

人身事故発生件数免許保有者比
人身事故発生件数（平成13年）／運転免許保有者数



これね、道も悪いねんよ。加古川ぐらいカーブミラーの多い町はない。事故が起きないように一生懸命立ててるんだけど、逆に言えば見通しの悪い交差点がとて多いって言うこと。特にバイパスの穴門。自転車で飛び出してくる人のなんと多いことか。死にたいんか！

事故の7割は、午後4時以降の薄暮時から夜間にかけて発生している。薄暮時の事を、「逢魔の時」と言うらしいが、恐ろしい時間帯だ。交差点の徐行、早めの点灯を心がけて、「魔」には逢いたくないものだ。

駅裏の開発とやらであつちこつちで工事してて、うつとしいなあ、思とったけど、こらちよつと辛抱せな、しゃーないなあ。広くて見通しの良い、度胸が少なくても運転できる道は欲しいモンねえ。でも、工事、遅れんように、早よしてね。

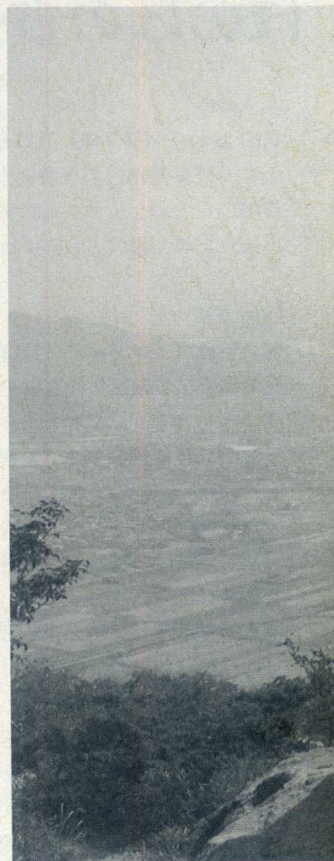
加古川町主婦

10月中旬、晴天に恵まれた日「ほっと」の編集部員3人で、高御位から鹿島神宮まで、7つの山を縦走した。登り口は、コースによって四方八方にあるらしいが、私達は成井からのコースを選んだ。足腰のストレッチを済ませて「いざ出発」！

高御位山「標高304メートル」から、鷹ノ巣山「標高264メートル」に掛けては、一般に知られている階段と、成井神社横から入る「けもの道」との2つがある。私達は、けもの道から登ることにした。ま

むしが出るんじゃないの？大丈夫かなあ？と、少々弱気の3人。足が進むにつれ、眼下に望む素晴らしい田園風景に目を奪われた。先ほどの不安が、心地良さに変化してゆくのを感じた。10月も半ばだというのに、半ソデのTシャツは、背中まで汗でビツショリ！

40分ほど登った所で、「けもの道」と「階段から道」とが交わる岩場がある。その岩場から、高御位頂上を望むと、大魔神と異名を持つ岩が、私達を迎えてくれる。播磨の神の山である高御位のハイカーを、見守ってくれているかの様に思えた。頂上にはすでに何組かのグループが、ベンチや岩場に腰を下ろし、汗をぬぐいながら、髪をなでるやさしい風に身を委ねていた。「朝夕毎日登るのが日課」と笑顔の御夫婦。久々に友人が集まったので、楽しげな



グループ。岩場でタオルを首に掛け、周囲の山々を満ちげに見下ろしている人。

それぞれの達成感が伝わってくる。毎年一月一日の元旦には、大勢の人達が、御来光を拝みに高御位に登る。御来光を待つ間、岩に腰を下ろし、魔法瓶に入れた暖かい飲み物で、冷えた体を温める人。ポットのお湯で、カップラーメンを作り、空腹を満たす人。中にはお雑煮を食べている人もいるとか。御来光までの時間を思い思いに過ごし、霊験あらたかな場所です。一年の計を練る。何だか心が洗われる様ですね。通常、山ですれ違うときは「こんにちわ」と、明るく言葉を交わしますが、御来光の時は「おめでとうございます」って声を掛けるんでしょか？なんて事を考えながら、私達は、残りの6つの山を制覇する為に、高御位神社でお参りを済ませ、「いざ出発」

山を越え、岩肌をすり抜け、ひたすら尾根を進む。青い空を自由に飛びまわる鳥のさえずりに励まされながら、最後の難所の百間岩まで辿り着いた。

“ファイト”と体育会系の3人で気合いを入れて下り始めたが、緊張の糸を少しでも緩めると足を滑らせて、尻もちをついてしまいくらいの傾斜だ。一歩、一歩、慎重に足を進めた。やつとの事で、無事下山「バンザイ」展望台から下山して来た百間岩を振り返り、50代の私でも達成できた満足感に、チョッピリ自信を抱いた。

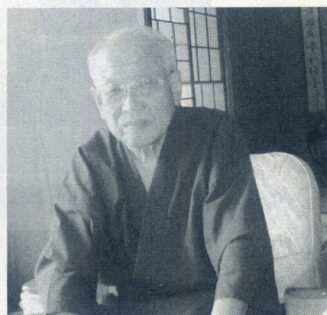
最近の 敬語の使い方に 喝ーっ！

31号のほつとかこがわに添付されている「あなたの声をお寄せください」の葉書に、新神野の狩野重治氏（74才）からいただきました。

『最近敬語の使い方が変だと思いませんか。一例をあげると、私は何時もNHKテレビの「趣味の園芸」を見ている。放送の中で「花に水をあげる」という言葉が出てきます。また、他の番組でも自分の子供に「…をしてあげる」という表現をする人があります。私は幼い時母から花とか動物に対しては「…してやる」もしくは、「…する」と教わりました。学校では子供達にどう教えているのでしょうか。』（葉書と同文）

とありました。私も犬や猫にえさをあげるという言葉に耳にしますので同感です。学校では、尊敬語・謙譲語・ていねい語等として習うのですが、日常使っているのは家庭の中で身近な人が使っているのを慣例として使ってしまうのではないのでしょうか。もっと他にも思っている事があるのではないのかしらと思ひ、自宅にお伺いしました。

狩野さんは、加古川市老人クラブ連合会理事・新神野老人クラブ連合会会長・新神野四丁目東友会会長等を歴任されています。話を聞かせてもらった中で、介護保険ができてから却ってヘルパーを利



用しにくくなった例があり、悪化しているのではないかと言われた。医者やヘルパーが質問して認定するが、老人は正直に言ってしまう過ぎて、不自由な思いをしてしまうことにもなりかねない。また狩野さんは「寝たきりと徘徊とは、どちらが重度だと思いますか」と私に質問された。「寝たきりが4で、徘徊は5と認定される」のだそうです。だからもっと柔軟性をもってやってほしいとのことでした。そして、この平成14年10月1日から医療費の患者負担が変わったことについても、「広報かがわ」の説明だけでは、わかりにくいので老人会主催の説明会をもたれるそうです。しかし、どうしてもわからない時は、北公民館の窓口で聞くように皆さんに言うておられるそうです。

余談ですが、狩野さんが住んでおられる新神野東友会（この頃は老人会という言葉嫌って地域名を使ったりする）は、会員数が53人で平均年齢78才だそうです。月一回の例会には40人が集まられるそうです。今年のバス旅行も、宮本武蔵生誕の地に行くのを楽しみにしておられるそうです。つい最近でと云っては何なんですが、昨年は町内の役もされて、丁度掲示板が古くなっていたのでコミュニティ協会に申請をして掲示板をもらい、喜んでおられました。

第14回

ほのぼのの賞受賞式

財団法人加古川市コミュニティ協会では、まちづくりや生活文化づくり、地域福祉の推進、コミュニティ活動に貢献のあった個人やグループを表彰しています。今年度も2月4日（火）に加古川市民会館大会議室で表彰式が行われ、盾と記念品が授与されました。受賞者は次の方々です。（順不同、敬称略）

個人の部

角田 かね子（77才）【コミュニティ活動の推進】

西神吉町長慶地区の長慶健康管理教室において、月一回保健師という職業をとおし、体や心の健康、社会の動き、女性の生き方、健康のあり方等、幅広い分野にわたり住民に指導して20年になる。

団体の部

老人給食ボランティア「野口町地区」（昭和59年結成）

【地域福祉の推進】代表者 本庄 曉美

長年（18年間）にわたり、野口町の老人給食サービス事業（毎週火曜日、月4回実施中）を担うボランティアとして、調理・配送・配食などで活躍し、老人福祉の増進に努めている。

また、メンバーは他の小地域福祉活動に積極的に参加する人が多く、今後も地域に根付いた活動が期待できる。

会員数58名。

老人給食ボランティア「米田町地区」昭和59年結成

【地域福祉の推進】代表者 渋谷 八重子

長年（18年間）にわたり、米田町の老人給食サービス事業（毎週金曜日、月4回実施中）を担うボランティアとして、調理・配送・配食などで活躍し、老人福祉の増進に努めている。

また、メンバーは他の小地域福祉活動に積極的に参加する人が多く、今後も地域に根付いた活動が期待できる。

会員数45名。

老人給食ボランティア「上荘町地区」昭和59年結成

【地域福祉の推進】代表者 佐治 笑子

長年（18年間）にわたり、上荘町の老人給食サービス事業（毎週木曜日、月4回実施中）を担うボランティアとして、調理・配送・配食などで活躍し、老人福祉の増進に努めている。

また、メンバーは他の小地域福祉活動に積極的に参加する人が多く、今後も地域に根付いた活動が期待できる。

会員数58名。



もっと思いやる心を

この頃特に思いやりやマナーが欠けていることが多いのでは。歩道を歩いていたら、後ろから自転車やバイクも鳴らさず、横を当たりそうになりながら、追い越されたり。

家の近くに点滅信号があつて、子供が剣道習つていて、帰り暗いから迎えに行くけど信号渡る時、左右確認してても車は止まる事無くスーと行きます。だから子供は体に夜、光るタスキをかけてるんです。



仁尾祐子さん 42歳 主婦

車イスでも心して外出できるまちを！

私の父は半身不随で、車イスの生活

愛しのほっとかがわ

病は気から、じゃなくて突然やって来る。思いがけない突然の病氣入院に、『引越し頼末最終報告』ができないまま（誰も期待していないって：悲しい：グスン）退院後、毎日、ボートと過ごしていると、これまた、突然の「ほっとかがわ」打ち切りの連絡を受けた。

大切な場所がひとつ無くなる！大げさでなく、そう思っている。加古川が好きで、夫の定年後はここで暮らそうと、密かに決めていたのに……

月に一度は明石に行く。時々加古川まで足を延ばす。車窓から見えてくる田んぼや畑、程よい距離の戸建て連に呼吸が楽になる。「ああ、やっぱりいいなあ」

ところで、同じ金額でマンションしか買えない地域と、少しゆとり目の一戸建てに住める地域。あなたならどちらを選びますか？ 諸事情は置いて私は後者です。それも加古川がいい。大切な友達がいって、手を加えすぎない自然があつて、

です。家から一歩外に出ると、車イスでの外出は、とても危険です。場所によつては、歩道が車道側に傾斜して、よほど強い力で車イスを支えていないと、車イスごと車道に投げ出されてしまいます。若い者だと支えることが可能でも、お年寄りだと、一緒に車道に転がってしまふ大惨事を招く結果になるでしょう。家の中でのバリアフリーも大切ですが、市内のバリアフリーもお願い致します。

障害があつて、車イスを余儀無くされている人たちにとっては、一日の数分の外出が気分転換になつて、健康な人には計り知れないほどの喜びなのです。車イスでも、安心して外出する事ができる加古川にして下さい。お願いします。

匿名希望

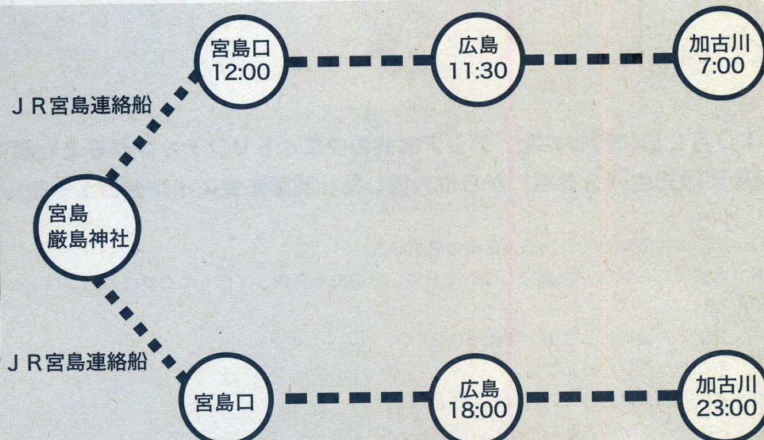
そして、何よりも市民参加の「ほっとかがわ」がある。

気軽に楽しく誰でもいつでもタウン誌発行の手伝いができる市町村は他にないと聞いた。何年か携わつて市政のこともちょっぴり見えてきた。いいこともガツクリする事もあつたけれど、住民意識も確実に高まつたように思う。加古川の良さを知ってもらいたい、もっと住みやすくしていきたい、そんな思いのメンバーが集まり、創つてきた、「ほっとかがわ」……

住んでいる時には気付かない故郷の良さというが、本当にそう。転出して、加古川の良さを知り、参加出来なくなつて「ほっとかがわ」の有難みがわかる。

地域の良さを生かし、加古川っていいよ、と言える場所であつてほしい。住民が、行政のお手伝いをしたくなるような場面を作つて欲しい。加古川に戻つて来たりしますように。

編集部 堀田



広島平和記念資料館 原爆ドーム



青春18 きっぷ

青春18きっぷで唯一船が乗れるのはJR宮島連絡船だけなので、宮島・広島方面へ行ってみました。船中でお弁当を食べたら朱塗りの社殿が見えてきて、平成8年に世界文化遺産に指定された厳島神社です。本殿を中心に、拝殿・能舞台などが約300mの回廊でつながっている。海中に立つ大鳥居は、高さ約16mで棟の長さは約24m。宮島橋付近は鹿が放し飼いにしてあつて人懐っこい。ひとしきり遊んだ後、次の広島へ行つて有名な路面電車に乗つて原爆ドームと広島平和記念資料館へ。

子供（中学生）は今まで、学校（バス旅行・修学旅行）から第二次世界大戦（昭和20年8月6日）で被爆地となつた広島へ行つてないから一緒に行きました。

広島平和記念資料館では、原爆に関する資料の展示、原爆記録映画を上映するビデオシアター、黒焦げになつた弁当箱、熱風で溶けたビンなど生々しい資料を展示してあるから、あまりのすごさにほんとかなと思うが、現実なので受け止めて、戦争の悲惨さと平和のありがたさを痛感しました。

子供が「すごいなあ、今は平和やなあ」と言つた言葉に、原爆のすごさを子供なりに理解したのだと思ひました。ゆつくり見たいと言うので2時間位いて、広島駅の喫茶店で休憩して、駅弁買って帰途に着きました。

加古川からだ、広島まで片道5時間位。けっこう時間的余裕もあつて、1日最大限で18きっぷを利用しました。

なんでだろ～♪ なんでかな～♪

取材/濱島実加 岡田あづさ 西野絢

なんで
「勉強しろ。勉強しろ」って
いうねん！

だいたい親は、よく「勉強しなさい！」
と怒ってくるが、自分は昔ちゃんと勉強し
てたのかと思う。

しかも、今の世の中、勉強して良い大学
を出ても就職先はなかなか見つからず、フ
リターであふれかえっているのが現状だ。
なのに、なんで勉強しなきゃならないん
だろと思うのは、子どもにとって当然の
意見ではないだろうか。

そこで私は納得のいく答えをもらうため
に母にどうして勉強しろと言うのか聞いて

みた。すると、勉強しないから言うのだ
と納得のいかない答えが返ってきた。

「何回も言われんのは腹が立つねんけ
ど！」ときつい口調で言ってみると母は、
「勉強をするように言うのは最終的に自
立して、自分の進みたい道に進んでほし
いから」と言ってきた。初めて聞いた母
のそんな言葉に私は少し動揺してしまっ
た。

でも、それじゃあ勉強したら就職先が
なかなか決まらない時代なのに、自分は
なりた職業につけるのかという問題に
なってくる。その質問に対しての母の答
えはこうだった。

「それは分らない」

まあ、答えられないのは唐突に聞いた
ことだし、しょうがないと思うけど分か
らないで済まされたくはない。やっぱり
納得がいかなかった時、母は「でも
勉強しないよりした方が自分の進みたい
道にいける可能性があるし、自分次第で
少しは変わるんじゃない？」と言った。
私は何も言い返すことが出来なかつ
た。

母と初めてこういう話をして私の将来
のことを本当に真剣に考えてくれてるの
がすごく分かった。そういえば、学校の
先生も服装面・勉強面に関して何回も注
意するのは立派な生徒になってほしいか
らだと言っていた。親も先生も私たちの
ことを考えてくれてるのは、今回を通じ
てよく分かったが、やはり親や先生の気
持ち、子どもの気持ちをお互いに分か
り合えてない部分は、まだまだたくさんあ
ると思う。

私が思うに、たまには親や先生に不満
を言ってみて自分の納得のいく答えをも
らうのもいいのではないだろうか。

10月2日に行われた、アジア大会のウエイトリフティング62kg級で教師の
羽藤辰雄先生（25歳）が6位入賞した。羽藤先生にインタビューをした。

羽藤先生 ウエイトリフティング アジア大会 6位入賞

Q、アジア大会に行くことになった時の感想は？

A、大会の前に合宿が大変でした。それに、日の丸を背負って行くので責任感とプレッシャーがあり
ました。

Q、アジア大会に行ってみての感想は？

A、すごうれしかったです。

Q、アジア大会に行った時に驚いたことは？

A、2m35cmの人がいたこと。中国の人でした。

Q、アジア大会に出るには？

A、年1回行われる全日本選手権での結果と前年に一定の重さをできた人がです。10人ぐら
いに絞られて枠を争います。女性は5階級で男性は8階級で僕は下から2個目の62kg級にでました。

Q、いつ頃からウエイトリフティングを始めたんですか？また、いつもどのくらいの練習をするん
ですか？

A、ウエイトリフティングを始めたのが高校1年生の15歳から始めました。高校の時は、4部練
習をしていました。でも、今は2～3時間ぐらいいしています。練習内容は、専門用語になるん
ですがスナッチ、ジャーク、デドリフト、スクワットを190回を3セット。

Q、韓国の選手村で出会った有名な選手はいますか？

A、ムロフシコウジ選手、フクハラアイ選手、シンクロのタケダ選手、柔道のコガ選手、水泳のキタ
ジマコウジ選手などです。

Q、韓国の街で驚いたことは？

A、交通費が、タクシーの初乗りが150円で地下鉄で隣の駅に行くのに30円だったこと。

Q、次の目標は？

A、目標は、来年の1年の間に力をつける。再来年のオリンピックで結果を出せるように練習するこ
とです。親に恩返しをしたいので、オリンピックに連れて行きたい。



高校生らしい

頭髮って何だろう？

学校で結構注意されるのが頭髮。
そのなかでも、ストレートパーマって注意されることがほとんどない。
「それはなぜ？」と知っている人は結構いるんじゃないかな？

校長先生と教頭先生に聞くと

「実際ストレートパーマは見分けにくいし、男としては特に判らない」と言われた。そう言われると「女の先生なら判るやん！」って言いなくなる。

でも、実際はどうなんやろ？

女の先生に聞くと「判る。でもパーマと比べて派手じゃないしな。結構黙認の部分もあるんちゃうかな？」と言われた。

それっておかしい？校則ではパーマを禁止しているはずなのに。矛盾している気がする。

そうなると、パーマは不可でもストレートパーマは可などといった校則に変えるべきだと思う。

実際の高校生らしい頭髮ってなんだろう？

なんで学校指定の靴下なん？

靴下なん？

また「なんで靴下も指定なん？」って思う生徒も多いんちゃうかな？

その一つの原因としては「ルーズソックス」。

ルーズソックスについて先生達に聞くと、「凄くダラシナイ。もっと高校生らしい服装をしてほしい」と言われた。

でも「実際高校生らしい服装ってなに？」って思うのが普通じゃないかな？

まあ、先生達に聞くと「制服をちゃんと着こなすこと」って言われるのが落ちかもしれない。それに、

「デザイナーがちゃんと制服にあった靴

下を作ってくれて、一つ一つにちゃんと意味がある」とも言っていた。

しかし、その意味をちゃんと理解しているのは先生だけじゃないだろうか？

生徒は絶対理解していないと思う。

実際なんで指定の靴下を履かないかというところ「ダサイし別に指定じゃなくてもかまへんやん！」って思うからだ。

でも、先生達は「そんなことよりも勉強に打ち込んで、目標をしっかりとみつけてほしい」という気持ちの方が大きいみたいだ。

そんなことを言われても「靴下の一つや二つどうだってかまへんやん！」って思う。

先生はこんなことを

思ってる

先生方が生徒に期待している事や不満に思っている事を聞いた。

「制服をちゃんと着てほしい。制服はデザイナーの人が一つ一つ考えてデザインしてくださっているんで、ちゃんと着てほしい。」

「目標の設定をきちんとしてほしい。」

「はじめをつけてほしい。これは親からの指導をお願いしたい。」

「学校の周りに放置されている車やゴミをどうにかしてほしい。やはり教育上よくないので。」

「勉強をしてほしい。できるだけ机に向かってほしい。」

「やっぱり、りっぱな生徒になってほしい。」と、先生達にも不満はあり、そういう教育をこれからもしていくつもりだそうです。

電車の中での携帯電話の使用は結構マナーが悪い。実際理解していない人が沢山いるからだと思う。それについてJRの人に聞いてみると、

「ベースメーカーを使っている人に影響を及ぼす恐れもあるし、周りのお客様に迷惑になるからです」と言われた。

また、「実際どれぐらいの距離で影響が起るかわからないし、それについては事例がないのでわかりません」とも言われた。

それに、ベースメーカーを所持している

食堂のマナーの悪さに 怒り爆発

安くて、おいしくいろんなメニューがある学校の食堂は、生徒・職員にとっても親しまれている。しかし、利用するのはいいのだが生徒のマナーの悪さには目にあまるものがあり、食堂の方々は大変迷惑している。例えば、机の上にあぶらとり紙やめんぼうがそのままになっていたり、悪戯でお茶の中にエビのしつ尾が入れられていたりする。特にひどいのが食堂ではなく外で食べ、食器をそのまま放置するということだ。食器は半分経ってから見つかることが多く、カビの生えた状態で返ってくるため、捨てるしかない。これは、後に使う人のことを全く考えていない証拠だと言える。

知らない人も多いかもしれないが、食堂は今、経営の苦しい状況にある。生徒数の激減が最大の原因である。食堂を守るのには私たち生徒しかないのに、このままでいいのだろうか。「マナーを守って食べに来てほしい」これが食堂の方々の強い願いである。

人からJRに要望がくることもあるそうだ。だからもし起こった時のことを考えると絶対に電源を切るべきだと思う。

しかし、今の世の中携帯電話が必需品の時代になってきているので「女性専用の車両が出てきているように、携帯電話使用可の車両が出てくる」といいのになあ」と思う。



いつもおいしいものをありがとう。→

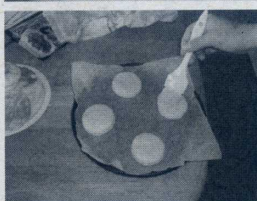
こんなになると、もう使えません。↓



お菓子 スコーンのレシピ

材料

直径5cmのもの8個分
薄力粉 200g
ベーキングパウダー 小さじ1
砂糖 50g
バター 50g
卵 1個
牛乳 適宜



《下準備》

- ①材料を冷やしておく（混ぜやすくなる）
- ②卵を溶きほぐし計量カップに入れて、90ccになるまで牛乳を加えて混ぜ合わせる
- ③オーブンを230℃に温めておく

《作り方》

- 1 薄力粉・ベーキングパウダー・砂糖をボールにふるい、次に冷やしたバターを1cm角に切って加え、指先でつぶし、粉全体にバターをむらなく混ぜ合わせる
- 2 全体が混ざったら中央をくぼませ、卵と牛乳を合わせたものを小さじ1杯分ほど残して加え、混ぜ合わせ生地をまとめる
- 3 まな板に打ち粉をふり、2を厚さ1.5cmまでめん棒でのばし型で抜き（コップを逆さにして抜いてもOK）、バットに並べて冷凍庫に入れ約15分冷やし固める
- 4 天板に冷やし固めた生地を2〜3cmずつ間隔をあけて並べ、表面に2で残した牛乳と卵の液を刷毛でぬる。230℃に温めたオーブンで10分焼く

※食べる時に2つに割って、あいだにお好きなジャムやはちみつをはさんで食べてね

【その他味のバリエーション】

- ココア大さじ1 1/2を材料に加えると、ココア味のスコーンになるよ！
- 紅茶の葉（あればアールグレイ）大さじ2を香りが立つまで弱火でいり、すり鉢で当たって細かくして粉類にまぜると、紅茶の香りを楽しめるよ！

最後だからちよつと愚痴を書いちゃおう。

今回の「ほつとかこがわ」じつは3回分製作した。1回目は去年の12月に発行予定だった「特集加古川立腹伝リターンズ」という号。この号は、ほつとの廃刊が決定した段階で、あまりにも特集が最後の号としてはふさわしくないんじゃないかという僕の考えで没。皆さんご迷惑をおかけしました。

2回目は、この号と同じ「メディアを創ろう」という特集だが、できた！と思った瞬間にまるでまっけてしまったと言わんばかり

にパソコンのハードディスクから異音が……。バックアップはとってあるが、同じハードディスク内だ……。かくしてハードディスクの物理的故障とともにできあがったほつとは南極の氷の中よりも深く、凍結されて永遠に取り出すことができなかった。（ちなみに壊れたハードディスクからデータを取り出すサルベージと呼ばれる作業をするには今回の場合で20万円かかるというわれた）

形あるものはいつか壊れたりなくなったりする。ではパソコンのデータは形があるのか？

たとえば、ヒトの意識。それは形がないから、はたしてあるのかないのか解らない。しかし、そう考えているのは意識だろうから存在はするのだらう。だが、その意識の入れ物である僕がなくなれば、それは同時に消滅する。まるでパソコンのデータって意識と同じじゃない？

なんてことを考えている場合ではなくて、再度製作。もちろん同じものなんてつくれません。特に文章。同じものは書けないですね。というわけで、今回のほつとは3回分製作されたというわけ。

しかし、いままでの13年間。このほつとは泣かされた。

他界された初代編集長の大槻さんが、いつだったか「やめる」と言い出したことがある。

その理由は簡単。たいへんだからだ。ほつとの製作で最大に特徴的なことは製作全員が素人だということ。大槻さんは、元新聞記者で、ほつとの編集長だ。その負担はすべてかかってくる。給料がでるわけでもないのに編集部に毎日、出勤していた。いつ頃か記憶にないが、どこかでもらってきたゴロ寝用のソファを編集部に持ち込んで、コミュニティ協会事務局から「それはちよつと……」と怒られてたりしていた。

突然、やめると言いはじめた大槻さんを僕は引き止めた。正直残り残されるのは嫌だと思ったからだ。その時、ぼくが言った屁理屈はこんなだった。

「ミニコミ製作してきた身してみれば、印刷費用のことを考えることなく、製作できる環境はすごく恵まれてる。でも、満足いく号をまだ出してない。せつかくだから、自分で満足のいく号を出してから辞めたい。だから僕はまだ辞めない」

大槻さんは、そんな僕のセリフが屁理屈だと当然解っていたらう。メディア製作者にとって、満足のいく号なんていつまでもたっても出来ないものだ。どんなにクオリ

変集最後愚痴

ティが高い雑誌でも、満足いく号が作れたとしたら、製作者としてはある意味、失格である。が、大槻さんは「そうか」と一言いって残っていた。

大槻さんが他界され、僕は残された。そして自分が大槻さんに言った言葉に縛られ、7年間ほつとを作った。気がつけば創刊当時の編集部のメンバーで残っているのは僕だけだった。

今回、いったん幕をひく「ほつとかこがわ」だが、僕は13年間残ってきてもよかったと思っている。たしかに、ほつとを創ることと犠牲にしたものは大きい。13年という年月は人生においての大きな部分を占める。この使いようによっては、後の人生が180度変化するといっても言い過ぎではない。その年月をほつとに費やしたことは後悔すべきことではないと思う。

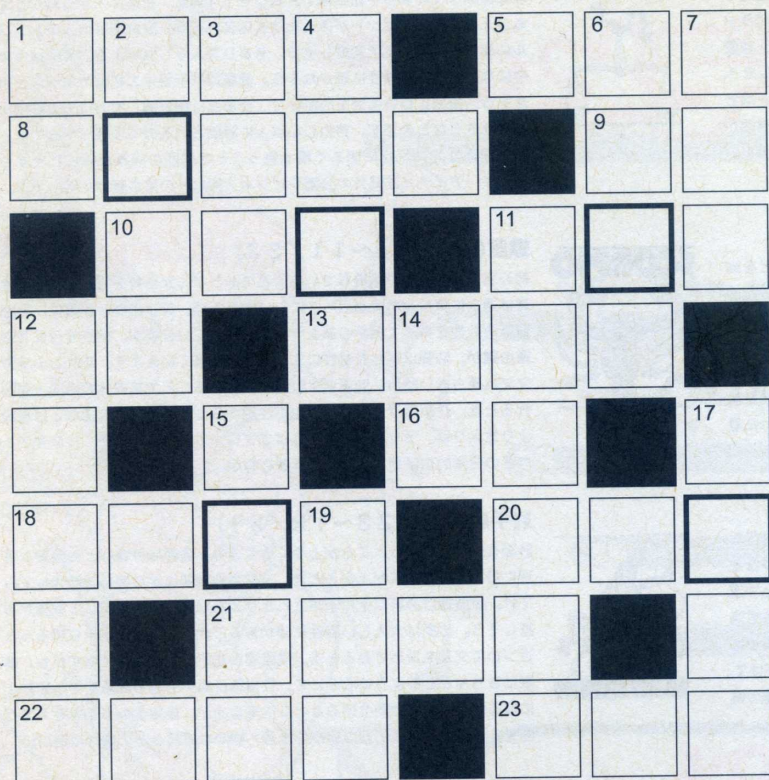
この号が印刷できたら、大槻さんの好きだった酒でも買ってきて地面に流しながらセンチメンタルにこう言おう。

「もう、いいでしょ。大槻さん」

形あるものはいつか無くなる。形のないデータや意識や、そして様々な想いも、その入れ物が壊れると同じく消滅してしまうのだ。人の命のように。

二代目変集長にしだ

hotクロスワードパズル



こたえ



ヒント/長年のご愛顧ありがとうございました

こたえがわかった方は、はさみこみのハガキでご応募ください。
正解者の中から抽選で素敵なプレゼントをさしあげます。
当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。
締切りは2003年4月末日まで。

たてのカギ

- 1 和歌を刻んでたてた石碑。
- 2 3月にスポーツセンターで行われる「加古川カップ」はこれの大会。
- 3 あまりにまぶしくて、目がくらむ。
- 4 いくら忙しくても礼を失してはいけません。
- 6 学校の気風
- 7 敵をあざむくために自分の身を苦しめること。〇〇の策
- 11 加古川市野口町にある念仏で有名なお寺。音楽の館でコンサートなども行われます。
- 12 野菜、卵焼き、魚介などをまぜたすし
- 14 県の首長。
- 15 とうもろこしで作ったアメリカ産のウィスキー
- 17 体にぴったり合うこと。
- 19 お酒を造る職人。

よこのカギ

- 1 加古川市名物の食べ物。
- 5 遅れてくること。
- 8 3月3日は桃の節句。
- 9 すしネタでもこれは高級。
- 10 溶鉱炉などで、初めて点火すること。
- 11 地形、高かったり低かったり…。
- 12 とても親しい親友。
- 13 加古川市の称名寺にある大木。
- 16 日照りのときに降るめぐみの雨。
- 18 野球、サードとセカンドの間の守備位置。
- 20 はにかみやさん
- 21 音が外に漏れないようにします。
- 22 あっという間
- 23 オリックスに今年入団したマック鈴木投手は〇〇〇神戸生まれです。

編集後記

人としての本能

「加古川なんかでタウン誌を発行しても、そうそうネタが続くもんじゃない」。これは、ほつとかがわの創刊当初によく聞いた台詞です。
これはよく言われる「加古川には文化がない」という言葉と同じく、おかしいことだと思えます。文化がない町など、世界中のどこを探しても存在しませんし、発信すべき情報がない町があるとすれば、人がひとりも住んでいない町でしょう。
ネタ、つまり「情報」は人がいるかぎり生じるものですし、媒体はそこに自然にできるものです。それは雨がたまり、やがて川になるのと似ていますし、人が集まれば道が自然にできるのにも似ています。

こうもよりは、あまり視力に頼らないといわれます。洞窟内ではもともと光がありません、視力は役に立たないからだそうです。そのかわりの器官としてこうもりは聴覚を発達させてきました。みずから音を発射し、それが壁などに当たりはねかえってくるエコーによって自分の位置を確認するのだそうです。これをエコーケーションと呼びます。

人間も例外ではありません。もし世界に自分ひとりだけがいけないとしたら、どうやって自分が存在していることを確かめたいのでしょうか？
人もこうもりのように、自分以外の存在の相対として、自分というものを確認しているのでしょう。このエコーケーションは、つまり群れをつくる動物すべてにコミュニケーションの必要性があることを示しているような気がします。

人は常に情報を求めています。情報の向こう側には常に人がいるからです。それはこうもりのエコーケーションのような生きるための本能ではないかと思えます。マスメディアもミニメディアも、繋いでいくのは人と人です。最近流行りのネットワーク型のゲームも、メールもチャットも、その向こうに人がいるからこそ、皆熱中するのだと思えます。

本号を持ちまして、読者の皆様とともに発行してきた「ほつとかがわ」はいつたん幕を閉じます。このほつとかがわが、人と人を繋いでいった事実は、かこがわのまちにとって非常に意味深いものであったと考えます。そして、その意味深さを総括する意味で今回の特集を組んでみました。

本文にも書いていますが、今は個人で媒体がつくれる時代です。次のほつとかがわは是非、皆さんの手で作っていただければと思っています。

いままでも愛読くださいます、ありがとうございます。
変集長にしろ



らりほう星占い

2003年春版



牡羊座 (3/21~4/20)

過去にしてきたことの恩恵や報いがあなたの身に降りかかる時期。金運はお金の貸し借りがトラブルの元になりそう、断る方向で。家庭運はバランスが大切になりそう、みんなに平等に接するように心がけましょう。恋愛運は家族の反対など障害が起きそう、また二人以外のことでケンカしそう。健康運は禁欲的な生活をする事で体調が整いそうです。ダイエットなどにも効果が期待出来そう。仕事運はあなたの思いやりのある態度で周囲が協力的になり、仕事ははかどりそう。ラッキーアイテムは日当たりの良い場所やスポーツ観戦、オレンジ色の小物に幸運の鍵が。



牡牛座 (4/21~5/21)

何か新しいことを始めるのにいい時期。金運は責任なく人のお金などを当てにしていると後で手痛いしっぺ返しがありそう。自立心を持って計画的に。家庭運は今まで悩んでいた事柄が解決の方向に向かいそう。自分の中の反省点にも気付くはず。恋愛運は尽くす愛に運氣アップの鍵が隠されているよう。健康運は交通事故や怪我等不注意から来る事故に気をつけて。仕事運は様々な選択を迫られ忙しくなりそう。決断力が解決の方向性を示します。ラッキーアイテムは美容室やクラシック音楽などの落ち着いた場所が吉。



双子座 (5/22~6/21)

自分の力を過信しすぎて周囲から人が離れていく運氣です。金運は旅行などにお金を使うといつより幸運に恵まれます。家庭運は勇気を持つことで様々な困難に立ち向かえます。恋愛運はプラトニックに徹することで道が開けます。健康運は不摂生がたたって体調を崩しそう。日のあたる生活と睡眠を良くするように心がけて。仕事運はイライラしてあまり仕事はかどりません。集中力が続かないので早め早めに片づけるように心がけて。ラッキーアイテムはハチミツと日曜大工、ショールームや森林に幸運の鍵が。



蟹座 (6/22~7/22)

他人からの干渉に悩まれ問題が進展しないとき。金運はお金以外の所に得るものが多いのでお金のことは忘れましょう。家庭運は好調で、レジャーなど野外でくつろぐと吉。オープンさを大切に。恋愛は大人しく思慮深い異性と知り合えるチャンスがありそう。健康運は外に出掛けたりすることで気分がリフレッシュし、リラックス出来そうです。仕事運は困難を乗り越え、仕事をやり遂げることが出来るでしょう。壁にぶつかっても諦めない姿勢が重要です。ラッキーアイテムは年上の男性、赤のアクセサリ、温水プールなどに幸運の鍵が。



獅子座 (7/23~8/22)

生活のリズムの不規則さから様々なものに支障が出る運氣。金運はギャンブルやくじ運がツイているときです。懸賞などで当選するかも。家庭運は無い物ねだりやお節介から疎ましがられそう。干渉もほどほどに。恋愛は、打算的な恋愛で相手との距離が開いてしまいそう。健康運は安らぐ雰囲気を作ることで安定しそう。ダイエットするにも良い時期。仕事運はリーダーシップを発揮することであなたの評価が上がりそう。また目上から期待されている時期なので頑張りが評価されるかも。ラッキーアイテムは美容器具や香水、庭園やエステなど美しさに関するモノが吉。



天秤座 (9/24~10/23)

弱気になって何事も中途半端で終わりそうな運氣。金運は人からおこってもらえたり、プレゼントがあったりと恵まれそう。家庭運は他人のトラブルに巻き込まれたりで苦労しそう。あまり深入りしないよう。恋愛は今までのないタイプの異性に惹かれそう。健康運は不摂生の影響で風邪など引きそう、規則正しい生活を心がけて。仕事運は絶好調。実力以上の評価が得られそうなときです。努力した以上に評価されるので頑張ってみては。人間関係はオープンに明るく振る舞うことで周囲の同意が得られます。ラッキーアイテムは郊外の公園やビジネス街などの落ち着いた場所が吉。



蠍座 (10/24~11/22)

初心忘るべからずの気持ちでいることでトラブルから身を守る運氣。金運は過去に貸したお金が返ってこないなど不調。貸し借りは慎重に。家庭運は柔軟性を持って相手の事を考えればうまくいきます。家族旅行にも幸運の鍵が。恋愛は何かを犠牲にすることでうまくいきます。あなたのワガママは通らない暗示。健康運は野外で運動することで基礎体力の向上が図れるとき。仕事運はちょっとした不注意からミスを連発、確認などは普段より念入りに。ラッキーアイテムはエプロン、石けん、台所、レストランなどの日常的に使用する場所に幸運の鍵が。



射手座 (11/23~12/21)

計画を立てて動くと、ことが上手く進む運氣。金運は貯蓄などの堅実な管理に努力すると効果が上がるとき。一度金融機関に足を運んで勉強してみても。家庭運は必要以上に干渉されたり、あなた一人が暴走して家族が迷惑しそう。恋愛は大人しい異性に縁があるとき。あまり突っ走らずそっと近づいて交友を深めてみると吉。健康運は寝不足から体調を崩すかも。睡眠はきちんとするように心がけて。仕事運は思いも寄らぬ急変で活動停止になる暗示。根性で乗り切ることも出来ますが、後始末のことも考えて行動を。ラッキーアイテムは海岸や水辺、静かな場所などに幸運の鍵が。



山羊座 (12/22~1/20)

だらしない生活でモラルからはずれた行為になりがちな時期。金運は使うより貯める生活で財産が出来るかも。家庭運はあなたの理想が高すぎて家族が愛想を尽かしてしまうかも。意思の疎通を持って妥協することも大切。恋愛運は好調。片想いの人は告白を。カップルは少しマンネリになりそうなのでどこかに出掛けてみては。健康運は怪我に注意。また病院での人間ドックなども受けてみると良い時期。仕事運はなにか副業を始めることで良い副収入が得られるとき。特技を生かせそうなら考えてみては。ラッキーアイテムは携帯電話やパソコンなど人とつながれるツールが吉。



水瓶座 (1/21~2/18)

精神的に疲れることが多い時期。金運は人と遊びに行ったり、共同で何かをする資金を出せば思った以上に楽しめたり成果が得られそう。家庭運は母親や姉など女性を大切にすることで円満になる暗示。恋愛運は尽くす愛に縁がありそう。見返りを期待しないで尽くすことで恋は進展しそうです。健康運は規則正しい生活をする事で体力が向上しそう。仕事運は人に裏切られたり、騙されたりと悲しい思いをすることがありそう。人間関係もあなたの暴走で付いてくる人はいなくなってしまうかも。ラッキーアイテムは交番や地下街、雑踏など街の中に縁がある場所に幸運の鍵が。



魚座 (2/19~3/20)

思っているばかりで物事に前に進まない時期。金運は突発的な出費から金欠状態が続くそう。家庭運は家の中で共通の趣味などの話題が弾みそう。恋愛運は誤った選択で迷うことが多くなりそう。また恋人に裏切られたり、三角関係で苦しんだり、トラブルが多そう暗示。健康運は歯痛や頭痛に困りそう。少しでも痛んだら医者へ駆け込んだ方が良さそう。仕事運はひとりひとりで打ち込める環境で仕事することで能率アップの暗示。あまり共同作業は向いていない時期。ラッキーアイテムはテレビゲームやパソコン、小説など一人で楽しめるものに幸運の鍵が。



乙女座 (8/23~9/23)

精神的に自立することであなたの強さが期待される時期。金運は絶好調。前々から欲しかったものが手に入るチャンス。家庭運は家族の絆が深まる時、レジャーや旅行に出掛けると楽しめそう。恋愛は理想の相手との出会いやカップルなら本当に楽しめる恋愛が出来る時。健康運は好調。女性はお産の暗示。仕事運は仕事に役立つ資格や勉強をするのによい時期。また目上の女性からの援助も期待出来そうです。人間関係もあなたの飾らない優しさで評価が高そうです。ラッキーアイテムはオープンカフェや花屋など屋外の華やかな場所に幸運の鍵が。

ばいばい、ま～たねー

1号



法徳寺/加古川市八幡町

製作者、本岡さんの亡くなられたお母様がいつも着てらした着物を、装束に仕立て直している。本岡さんの気持ちが込められた第1号ロボット和尚。

2号



佛性寺/加古郡播磨町

本岡さんの自宅近くにある。

3号



二子住吉神社/加古郡播磨町

宮の伝統を守り、雅楽の太鼓は「スリ叩き」に工夫してある。

4号



尾上神社/加古川市尾上町

神主さんの装束を着用。

5号



円光寺/加古郡稲美町

位の高い元僧の装束を着用。

モチツキ娘



馬力が小さすぎて、作り直しているモチツキ娘。初めて手掛けた女性ロボット

ロボットオショー

製作者の本岡さんは、元国鉄の技術職員で、定年後ロボット作りを始めた。ロボットの材料には、雨といや自動車のワイパーなどの廃材を利用しており、適当なものが無い場合は自分で作っている。第1号がお目見えしたのは八幡町の法徳寺。本岡さんの亡くなられたお母様のご供養にと奉納された。リズムカルにも木魚を叩く、そのユーモラスな姿は見る者の笑顔を引き出し大人気に。今では6号まで兄弟がいる。

13年間の ありがとう！

本号を持ちまして、
13年間読者の皆様とともに発行してきました
「ほっとかこがわ」はいったん幕を閉じます。
いままでご愛読くださいまして、
ありがとうございました。

